



東京湾再生官民連携フォーラム

平成28年度事業報告

平成29年3月
東京湾再生官民連携フォーラム

目 次

I. 事業期間	1
II. 事業の成果.....	1
1. 政策提案「東京湾パブリックアクセス方策に関する第一次政策提案」総会承認・手交へ.....	1
2. セブン-イレブン記念財団と東京湾再生官民連携フォーラム基本協定を締結.....	1
3. 経団連自然保護協議会記念シンポジウムおよび企業とN G O等との交流会に参加	1
4. 企業とN P O等マッチング交流会の開催	2
5. 企業からの新しい支援方策について	2
6. 東京湾再生官民連携フォーラム 平成 28 年度通常総会の開催.....	2
7. 東京湾大感謝祭 2016 の開催.....	2
8. 政策提案の総会承認「東京湾パブリックアクセス方策に関する第一次政策 提案」	3
9. 第 1 回 PT 長会議開催.....	3
10. 法人化検討委員会の開催.....	3
11. 東京湾の再生のための行動計画（第二期）第 1 回中間評価.....	3
12. シンポジウムなどの開催団体への後援実施.....	4
13. フォーラムの活動概要を伝える「みんなの東京湾みんなで再生」のパンフレットの作成.....	4
III. 事業実施経過.....	4
1. 東京湾再生官民連携フォーラム 平成 28 年度 第 1 回企画運営委員会	4
2. 東京湾再生官民連携フォーラム 平成 28 年度 第 2 回企画運営委員会	5
3. 東京湾再生官民連携フォーラム 平成 28 年度 第 3 回企画運営委員会	5
4. 東京湾再生官民連携フォーラム 平成 28 年度 第 4 回企画運営委員会.....	5
IV. 会員募集の実施（平成 29 年.3 月までの推移結果）	6
V. 東京湾再生官民連携フォーラム 平成 28 年度通常総会.....	7
VI. C S R – N P O 未来交流会	8
1. 平成 28 年度 第 1 回 C S R – N P O 未来交流会開催	8
2. 平成 28 年度 第 2 回 C S R – N P O 未来交流会開催.....	14
3. CSR-NPO 未来交流会 企業・行政等施設見学会	20
VII. 政策提案・「東京湾パブリックアクセス方策に関する第一次政策提案」	21
に関する提案書（資料 1 参照）	21

VIII. プロジェクトチームの活動状況	21
◇モニタリング PT (PT 長 横浜国立大学 客員教授 古川 恵太)	21
◇生き物生息場づくり PT 第 2 期の活動 (PT 長 東京大学大学院 教授 佐々木 淳)	22
◇指標活用 PT (PT 長 国土交通省国土技術政策総合研究所 海洋環境研究室長 岡田 知也)	23
◇東京湾大感謝祭 PT (PT 長 NPO 法人海辺づくり研究会 理事・事務局長 木村 尚)	25
◇パブリックアクセス方策・検討 PT (PT 長 NPO 法人 横浜創造まちづくり学会 会長 竹口 秀夫)	27
◇東京湾での海水浴復活の方策検討 PT	28
◇江戸前ブランド育成 PT	28
◇東京湾浅瀬再生実験 PT (PT 長 (株) つり人社 代表取締役会長 鈴木 康友)	29
◇東京湾の窓 PT (PT 長 谷津干潟ワイズユース・パートナーズ 芝原 達也)	29
IX. 広報活動 / 交流会参加 1. 経団連自然保護協議会のシンポジウムおよび交流会の参加	30
1. 会員へのメール配信	30
2. 東京湾大感謝祭開催概要	30
3. 港湾空港タイムスによるフォーラム特集	31
4. 東京湾再生アンバサダーの活動	31
5. 遊ぶ。暮らす。育てる。SATOYAMA & SATOUMI へ行こう 2017 への参加	31
6. 東京湾イベントカレンダーオープン	32
7. 東京湾再生官民連携フォーラムから東京湾再生推進会議へ 3 つ目となる政策提案を実施	32
X. フォーラム平成 28 年度決算	33
■資料 1 : 政策提案書	1
■資料 2 : 会員メール配信 東京湾-News Letter	4
■資料 3 : 東京湾大感謝祭 2016 開催会場アンケート結果	8

I. 事業期間

平成 28 年 (2016) 4 月 1 日 ~ 平成 29 年 (2017) 3 月 31 日

II. 事業の成果

主な活動成果は、以下の通り。

1. 政策提案「東京湾パブリックアクセス方策に関する第一次政策提案」総会承認・手交へ

來生 新 議長から、東京湾再生推進会議幹事長・モニタリング分科会主査 海上保安庁総務部 石澤龍彦 参事官に手渡されました。

この提案は「人々が海を知り、楽しむことにより人と海が共生する条件を整える必要がある。そのため、「人々が、手軽に海に接する既存のアクセスを広く認識し、活用が進むこと」に関する提案。

「東京湾パブリック・アクセス方策検討竹口 P T 長)のもと、P T での議論を積み重ね、企画運営委員会、フォーラム会員、関連自治体、本省の討議ヒアリングなどの目を通して、まとめられた。約 2 年間にわたる P T 活動の積み重ねの成果が提案のベースになっている。

2. セブン-イレブン記念財団と東京湾再生官民連携フォーラム基本協定を締結

東京湾再生官民連携フォーラムと一般財団法人セブン-イレブン記念財団は、「共通の理念・相互信頼」のもと、「東京湾再生に意欲を持つ多様な関係者が有するあらゆる英知を結集し、連携や協働を行うこと、また、これらの活動を通して生み出される東京湾再生への多様な意見を尊重しつつ提案として取りまとめる」ための活動を共に協力し、実践するために基本協定書（以下本協定書という）を締結した。

3. 経団連自然保護協議会記念シンポジウムおよび企業と N G O 等との交流会に参加

平成 28 年年 5 月 30 日に、経団連会館 2 階（経団連ホール北）で開催の同シンポへの参加。シンポジウムとは別に会場を移しての交流会に参加。東京湾大感謝祭実行委員会と共に交流を図りました。

(1) 記念シンポジウム 共催 公益信託経団連自然保護基金

開催日：5 月 30 日（月）13：00～16：00

場 所：経団連会館 2 階（経団連ホール北）

内 容：開会挨拶：経団連自然保護協議会 会長 二宮 雅也来賓挨拶 環境省大臣官房審議官 亀澤 玲治氏

①2016 年度公益信託経団連自然保護基金支援プロジェクトの紹介：三井住友信託銀行株式会社（受託者）②

記念講演：東京大学大学院農学生命科学研究科教授 下村 彰男氏 「生物多様性保全と地域内外協働」③

事例発表：多様な主体の連携・協働による生物多様性保全の取組み・日本電気株式会社（NEC 田んぼ作りプロジェクト）・株式会社ジェーティービー（JT B 地球いきいきプロジェクト）・株式会社熊谷組（ホテルの棲める環境づくり）④パネルディスカッション

(2) 企業と N G O 等との交流会（取組紹介）[共催 公益信託経団連自然保護基金]「への参加

交流会は、一コマのブースを使用し、フォーラム活動の活動を紹介するとともに、フォーラム主催の未来交流会の開催案内および東京湾大感謝祭の実施を紹介した。参加企業のなかには、魚などを商品展開している企業などへのフォーラム活動紹介、三井物産など支援企業などとも情報交換を図る。東京湾大感謝祭動画もプレゼンテーションを行った。トヨタの白川郷の自然学校や C W ニコルの東松島の自然学校などの紹介が

あり、自然学校と自治体、企業の新たな関係性が発展している。

4. 企業とNPO等マッチング交流会の開催

(1) 平成28年度 第1回CSR-NPO未来交流会

日時：平成28年7月14日(木) 13:00~16:30

参加団体：27団体

場所：東京都千代田区麹町5-1 弘済会館4F(萩)

主催：東京湾再生官民連携フォーラム

協力：経団連自然保護協議会、一般財団法人セブン-イレブン記念財団

(2) 平成28年度 第2回CSR-NPO未来交流会

開催日：平成28年12月8日(木) 13:00~16:30

参加団体：16団体

場所：東京都千代田区麹町5-1 弘済会館4F(萩)

主催：東京湾再生官民連携フォーラム

協力：経団連自然保護協議会、一般財団法人セブン-イレブン記念財団

(3) 企業・行政等施設見学会の実施

昨年に引き続き9月15日(木)に企業・行政等施設見学会を開催した。東京湾再生のための多様な主体の交流の場の提供及びノウハウの共有、改善方策検討の参考として頂くために開催しているもの。

<見学コース>

- ①(独)都市再生機構 高島水際線公園(人工干潟潮入りの池)
- ②横浜港見学(国土交通省 関東地方整備局 京浜港湾事務所所有 港湾業務艇たかしまⅡに乗船)
- ③国土交通省 関東地方整備局 横浜港湾空港技術調査事務所 人工干潟 潮彩の渚
- ④国土交通省 関東地方整備局 千葉港湾事務所所有清掃船兼油回収船 べいくりん

5. 企業からの新しい支援方策について

アクセンチュア株式会社からフォーラムに対し、アクセンチュアの顧客企業が運用するポイント制度を活用した新しい方式による支援の提案があり、試みとして東京湾大感謝祭実行委員会への支援として実施した。

具体的には、関西電力が運用するポイントクラブで、東京湾大感謝祭へ賛同する方が取得ポイントを寄付するもの。受付期間は平成28年11月28日~平成29年2月28日までで、頂いたポイントは、57人、5,983ポイントであった。

6. 東京湾再生官民連携フォーラム 平成28年度通常総会の開催

日時：平成28年10月22日(土) 9:30~11:20

会場：横浜赤レンガ倉庫1号館3階ホール

出席者：会員数400(団体・個人)に対し出席63(団体・個人)、委任状60(団体・個人)

7. 東京湾大感謝祭2016の開催

10月21日(金)(第17回東京湾シンポジウム同時開催)を皮切りに、天候にも恵まれ3日間で9万8,000人の来場者実績。全121小間、147社・団体参加。東京湾再生アンバサダーの日本テレビ放送網株式会社

アナウンサー榎太一氏による司会、同じく東京湾再生アンバサダー赤城乳業株式会社 キャラクター「ガリガリ君」の赤レンガ広場ステージ出演など積極的なPRを行う。

開催日：平成 28 年 10 月 22 日（土）～23 日（日） 10：00～17：00

会 場：横浜赤レンガ倉庫 1 号館 2 階、広場。周辺海上

8. 政策提案の総会承認「東京湾パブリックアクセス方策に関する第一次政策 提案」

平成 28 年 10 月 22 日（土）東京湾再生官民連携フォーラム通常総会において、フォーラム発足以来 3 つ目となる政策提案が承認され、東京湾再生推進会議に提出されることとなった。この政策提案は、平成 29 年 3 月 30 日、來生議長より東京湾再生推進会議幹事長・モニタリング分科会主査 海上保安庁総務部・石澤 龍彦 参事官に手交された。

9. 第 1 回 PT 長会議開催

開催日：平成 28 年 8 月 2 9 日（月） 16：00～17：30（18：00）

場 所：みなと総合研究財団会議室

内 容：① PT 相互の情報共有

② 政策提案のとりまとめについて その仕方や経過

③ 東京湾大感謝祭での広報 PR の活用、事前告知、日常活動の広報 PR について

④ 事務局への要望や P T 連絡について

10. 法人化検討委員会の開催

<第 1 回>

開催日：平成 28 年 10 月 22 日(土) 16：00～17：30

会 場：横浜赤レンガ倉庫 1 号館 3 階 ホール控室 (C1,2)

内 容：下記の項目について第 1 回の検討議論が行われた。

① 官民連携フォーラムの現状と課題

② 法人化検討の目的

③ 法人化検討にあたっての留意事項（資金、官の関与、政策提案の取り扱いなど）

④ 今後の進め方

<第 2 回>

開催日：平成 29 年 3 月 14 日(火) 15：00～15：50

会 場：スタンダード会議室 2 階ミーティングルーム

内 容：下記の項目について第 2 回の検討議論が行われた。

①ハイブリッド型組織の事例収集と解析

②フォーラムがこれまで蓄積してきた美点を持続的にどう担保するのかを検討

③蓄積された「守るべき美点」・フォーラムの良き特徴や態度の整理検討

11. 東京湾の再生のための行動計画（第二期）第 1 回中間評価

平成 29 年 3 月 17 日、「東京湾再生のための行動計画（第二期）」が平成 25 年の策定から 4 年目を迎えたことから、東京湾再生推進会議において、これまでの施策実施状況（平成 25 年度から平成 27 年度）の

りまとめと、その評価が公表された。その評価には、東京湾再生官民連携フォーラムの設立の報告や、フォーラムからの政策提案の実施状況などの評価が盛り込まれた。

1.2. シンポジウムなどの開催団体への後援実施

平成 28 年度はシンポジウムなど 3 つの後援を実施。

- (1) 東京湾海洋環境研究会主催による第 8 回東京湾海洋環境シンポジウム「東京湾を学ぶ：沿岸・流域環境とウナギ」への後援。

開催日：平成 28 年 10 月 16 日

場 所：東京海洋大学海洋科学部 2 号館 100A 教室

- (2) 国土交通省国土技術政策総合研究所主催による第 17 回東京湾シンポジウムへの後援

開催日：平成 28 年 10 月 21 日（金）

場 所：横浜赤レンガ倉庫 1 号館 3 F

- (3) 浦安三番瀬を大切に作る会主催による東京湾環境学習フォーラムへの後援

開催日：平成 29 年 2 月 5 日（日）

場 所：浦安市役所 10 階協働会議室

1.3. フォーラムの活動概要を伝える「みんなの東京湾みんなで再生」のパンフレットの作成

フォーラムの使命とその構成要素となる 9 つのプロジェクトチーム、東京湾再生アンバサダーの紹介、会員数内訳などを簡潔に優しく紹介したパンフレット。交流会をはじめとして、初めて接していただく方へのフォーラムの簡単紹介ツール。

内 容：会員募集、東京湾再生 目標

フォーラム活動の目的

PT（プロジェクトチーム）の活動概要

会員構成 など

体 裁：A3 判 二つ折り。



III. 事業実施経過

1. 東京湾再生官民連携フォーラム 平成 28 年度 第 1 回企画運営委員会

開催日：平成 28 年 5 月 17 日 16:00~18:00

場 所：スタンダード会議室 虎ノ門ヒルズフロント店 小ホール

議事次第

≪審議事項≫

- (1) 平成 27 年度事業報告（案）、決算（案）及び監査について
- (2) 平成 28 年度事業計画、予算（案）について
- (3) フォーラム法人化の検討について

≪報告事項≫

- (1) セブン-イレブン記念財団との協定締結について
- (2) CSR-NPO未来交流会（マッチング交流会）について
- (3) 東京湾イベントカレンダーについて
- (4) 平成 28 年度 P T 活動状況
- (5) その他

2. 東京湾再生官民連携フォーラム 平成 28 年度 第 2 回企画運営委員会

開催日：平成 28 年 7 月 21 日（木） 16：00～18：00

場 所：スタンダード会議室 虎ノ門 虎ノ門 SQUARE 店

議事次第

「審議事項」

- (1) フォーラム法人化検討委員会について
- (2) パブリックアクセス P T 政策提案について
- (3) 港湾業界新聞へのフォーラム活動の連載について
- (4) 平成 28 年度フォーラム総会議事次第（案）について

「報告事項」

- (1) 平成 28 年度 P T 活動報告
- (2) CSR-NPO未来交流会（マッチング交流会）について
- (3) その他

3. 東京湾再生官民連携フォーラム 平成 28 年度 第 3 回企画運営委員会

開催日：平成 28 年 9 月 29 日（木） 10：00～12：00

場 所：スタンダード会議室虎ノ門ヒルズフロント店 小ホール

議事次第

「審議事項」

- (1) パブリックアクセス P T 政策提案について
- (2) 平成 28 年度フォーラム総会議事次第（案）について
- (3) 平成 28 年度第 2 回 CSR-NPO 未来交流会開催（案）

「報告事項」

- (1) P T 長会議報告
- (2) 平成 28 年度 P T 活動報告
- (3) 平成 28 年度企業・行政等施設見学会報告
- (4) フォーラム法人化検討委員会について
- (5) その他

4. 東京湾再生官民連携フォーラム 平成 28 年度 第 4 回企画運営委員会

開催日：平成 28 年 3 月 14 日（火） 16：00～18：00

場 所：スタンダード会議室 虎ノ門 虎ノ門 SQUARE 店

議事次第

「審議事項」

- (1) フォーラム平成 29 年度事業計画（案）、予算(案)について
- (2) CSR-NPO未来交流会（マッチング）について
- (3) 企業・行政等施設見学会について
- (4) 平成 29 年度フォーラム総会開催について

「報告事項」

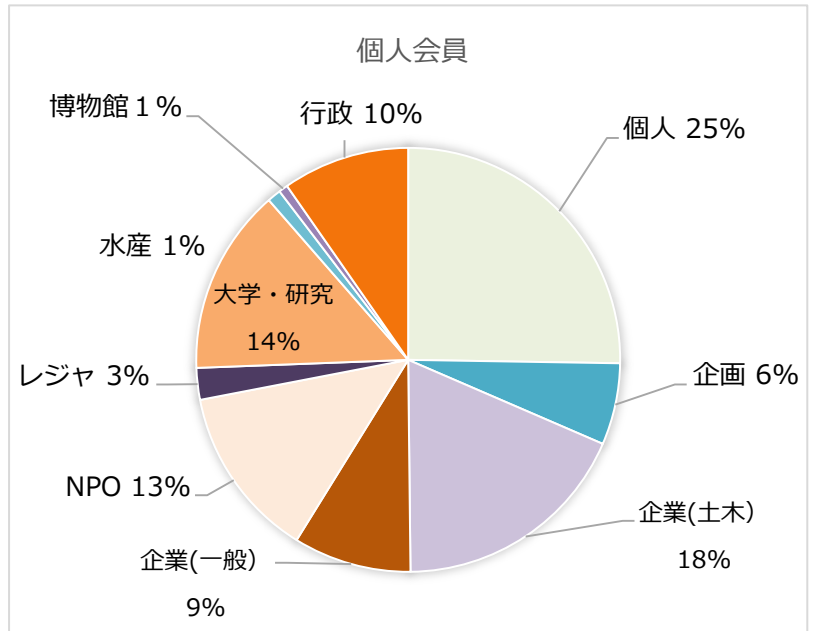
- (1) フォーラム平成 28 年度事業報告（案）について(事務局)
- (2) PT平成 28 年度活動報告、平成 29 年度活動計画（各PT長）
- (3) 法人化検討委員会（第 1 回）報告
- (4) その他

IV. 会員募集の実施（平成 29 年 3 月までの推移結果）

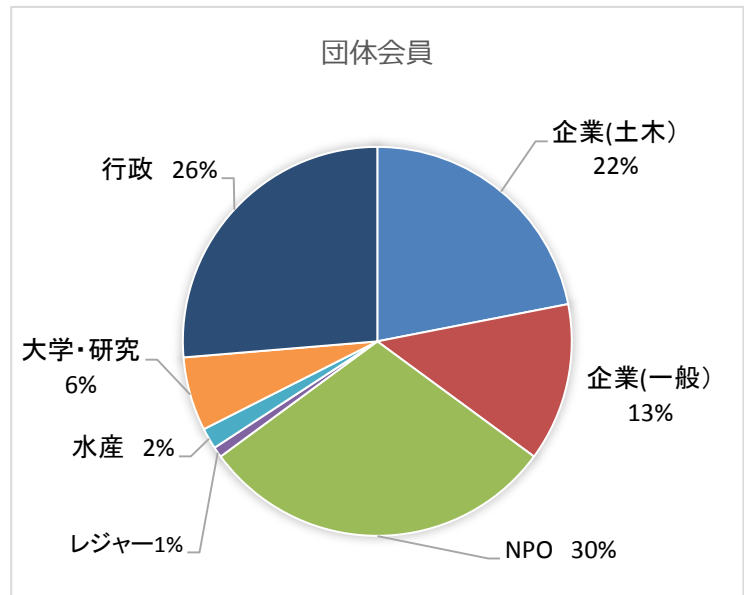
「東京湾再生官民連携フォーラム」（以下、フォーラムという）の趣旨に賛同し、会への参加を希望し、会員への登録を申し込んだ者。東京湾の再生にあたっては、東京湾に関わる企業、研究者、水産関係者、レジャー関係者、NPO、市民、行政等の多様な関係者が、その英知を出し合い、共に連携協働し、楽しみながら環境再生の取組をする。賛同された会員の状況は下記のとおり。微増ながら毎年着実に会員が増加している。

（会員カウント：平成 29 年 3 月 31 日）

個人会員（人、％）		
個人	73	25%
企画	18	6%
企業(土木)	53	18%
企業(一般)	26	9%
NPO	38	13%
レジャー	7	2%
大学・研究	41	14%
水産	3	1%
博物館	2	1%
行政	28	10%
合計	289	100%



団体会員（人、%）		
企業(土木)	25	22%
企業(一般)	15	13%
NPO	34	30%
レジャー	1	1%
水産	2	2%
大学・研究	7	6%
行政	30	26%
合計	114	100%



V. 東京湾再生官民連携フォーラム 平成28年度通常総会

開催日：平成28年10月22日（土） 9：30～11：20

会 場：横浜赤レンガ倉庫1号館3階ホール

出席者：会員数400(団体・個人)に対し出席63(団体・個人)、委任状60(団体・個人)



議事次第

1. 開会
2. 議長挨拶

東京湾再生官民連携フォーラム議長 來生 新

3. 議事

- (1) 議長選出
- (2) 議題の採択
- (3) 議事録署名人の選出
- (4) 報告議題
 - (4)-1 平成27年度活動報告及び平成28年度活動計画
 - (4)-2 プロジェクトチームの活動報告
 - (4)-3 新プロジェクトチーム設立報告
 - (4)-4 CSR-NPO未来交流会報告及びH28第2回未来交流会案内
 - (4)-5 企業・行政等施設見学会報告
 - (4)-6 東京湾再生アンバサダー紹介
- (5) 審議議題
 - (5)-1 東京湾再生推進会議への政策提案について
- (6) その他

4. 閉会

配付資料

資料-1 第一号議案 平成28年度通常総会 議事次第（案）

資料-2 第二号議案 東京湾再生推進会議への政策提案について

参考資料 パブリック・アクセス例

【議長挨拶】 東京湾再生官民連携フォーラム議長 來生 新

「今年で4回目の総会です。この4年間、順調に政策提案もでき、大感謝祭も年を重ねるたびに盛況になってきました。手探りでスタートしたが、初期の活動が順調に推移してきています。

この活動を将来に向けて安定的にサステナブルに展開したい。東京オリンピックで東京湾に関心が集ま

っていますが、オリンピックが終わった後も東京湾は私たちの貴重な財産として、より良くしていかなければならない。将来を見据えてこの会をどのようにするのか、この活動をより安定的に着実なものにするために法人化の検討委員会も今のタイミングで行われます。

会員の皆さまに、是非支えていただくことをよろしくお願いいたします。」

VI. CSR – NPO未来交流会

1. 平成28年度 第1回 CSR – NPO未来交流会開催

<開催概要>

開催日：平成28年7月14日(木) 13:00～16:30

場所：東京都千代田区麹町5-1 弘済会館4F(萩)

参加団体：27団体

内容：

- 交流会に先立ち、経団連自然保護協議会から、協働マッチングの取り組みに向けて「ISO 14001 規格改正による新規要求事項 [生物多様性]への対応」の講演が行われた。
- 続いて、行政・市民・学校・研究者のマッチング事例として、高島水際線公園愛護会 から「都市型水際線公園を活用した新しい水辺活動の展開」、行政・NPOのマッチング事例として、NPO法人リトルターン・プロジェクト から「水処理再生センターの屋上を利用した渡り鳥の営巣地づくり」の活動報告紹介。
- 交流会では、都合テーブルを囲んで3チームに編成して、活発な議論と紹介が行われた。



交流会プログラム 13:00～16:30		
時間	内容	発表
13:05	主催者挨拶	東京湾再生官民連携フォーラム議長
13:10～ 13:30	講演-1 協働マッチングの取り組みに向けて 「ISO 14001 規格改正による新規要求事項 [生物多様性] への対応」	経団連自然保護協議会 事務局次長 中井 邦治
13:30～ 13:50	講演-2 協働マッチング事例 (行政・市民・学校・研究者) 「都市型水際線公園を活用した新しい水辺活動の展開」	高島水際線公園愛護会 会長 坪倉 良和
13:50～ 14:10	講演-3 マッチング事例 (行政・NPO) 「水処理再生センターの屋上を利用した渡り鳥の営巣地づくり」	NPO法人 リトルターン・プロジェクト 理事長 北村 亘
14:30～ 16:10	交流会：参加企業、参加NPO等交流	各テーブルごとによる交流の実施
16:10～ 16:20	質疑応答	今までの質疑の受付
16:25	閉会	

	団 体 名	活 動 紹 介
1	経団連自然保護協議会	経団連自然保護協議会は、地球サミット(環境と開発に関する国連会議)がブラジルのリオデジャネイロで開催された 1992 年に設立され、経団連の会員企業のうち、自然保護や生物多様性の保全に積極的に取り組んでいる 116 社が参画しています。現在、「経団連自然保護基金によるプロジェクト支援」、「企業と NGO の交流推進」、「企業への啓発活動」及び「自然再生を通じた東北復興」の 4 つに重点を置いて活動しています。
2	高島水際線公園愛護会	横浜駅から徒歩 5 分程度のところにある高島水際線公園の愛護会です。主な活動は、公園の清掃と「潮入の池」をどう活用していくか自分たちで考えていくことです。自分たちで汗をかいて解決しようという思いは、街づくりにもつながるものがあると思っています。愛護会の活動などでさらに広がったネットワークを活かして、日本初の市民による「まちづくり会社」を作れないかと思っています。市民主体の活動に、行政や政治を巻き込めたらうれしいです。
3	NPO 法人 リトルターン・プロジェクト	大田区にある森ヶ崎水再生センター屋上で絶滅危惧種のコアジサシが営巣しているのを 2001 年に発見して以来、東京都下水道局や大田区と共同しながら保全活動を行っています。本来、砂浜や河原で繁殖するコアジサシのための代替的な営巣地を提供する目的で、雑草の繁茂の抑制、捕食者対策、デコイ設置といった整備活動をボランティアと行っており、2015 年までに累計 7,000 羽以上(推定)のコアジサシがこの場所で生まれています。
4	NPO 法人地球野外塾	NPO 法人地球野外塾は 2004 年設立以来、主に親子対象の自然体験活動のひとつとして東京湾に関わる自然体験活動を続けています。首都圏に住む方々にとって東京湾は地理的に身近なのに心理的に縁遠いようですが、どのように「おつき合い」できるのか不案内なうえ、汚いイメージがつきまとっているようです。多くの方々が東京湾で育つ生物の多さ・景観美・親水の魅力に気づいて多様なアプローチができるようサポートしています。
5	特定非営利活動法人 愛夢(あいむ)	当法人は、青少年からシニアまで幅広い年齢層に、海に囲まれた我が国「日本」の環境の中、水辺活動からマリンスポーツを通じて生涯スポーツの紹介、環境保全、環境教育、そして防災教育などを提供し、心から身体に健康を寄与している。近年特に環境教育、防災教育をテーマとしたイベントが注目をされてきている部分に力を入れていく予定です。

6	横浜ゴム株式会社	<p>横浜ゴムでは 2010 年に「生物多様性ガイドライン」を定めました。当社は天然ゴムをはじめとする自然資本に依存し、工場では装置を加熱・冷却するために多量の水を利用しています。工場操業による生態系へのインパクトを評価するために国内 7 事業所、海外 4 事業所で工場内及び周辺河川等での生物多様性調査を行っています。</p> <p>また、日本野鳥の会の法人特別会員に加入し、国内事業所での野鳥観察を各地区支部の支援を受けて実施しています。</p>
7	日本エヌ・シー・エイチ株式会社	<p>弊社、日本エヌ・シー・エイチ株式会社はアメリカ・テキサス州・ダラスに本社がある機械・施設のメンテナンス製品を製造・販売するメーカーです。昨年より CSR 活動をスタートし、昨年開催された CSR-NPO 未来交流会を通じ千葉の大房岬自然の家神保所長と出会い、会社初の CSR 活動をさせていただきました。弊社の設備のメンテナンス製品（床洗浄・コーティング、ガラス窓清掃、厨房床洗浄、錆防止塗料塗布など）を使った CSR 活動をさせていただいております。</p>
8	昭和産業株式会社	<p>生物多様性についての取り組み</p> <p>当社は、海外から穀物を輸入して加工販売している食品会社です。生物多様性の保護に関する取り組みとしては「昭和産業グループ生物多様性保全基本方針」を設け、経団連自然保護基金への寄付、東京湾の生態系保護に関しては東京都主催の「海の森の植樹」に参加してきました。今回の交流会に参加させていただき、勉強させていただきたいと思っております。</p>
9	地下水環境クリニック	<p>当団体は 2011 年 12 月に設立。メンバーは企業をリタイアした技術屋さんの集まりです。主な活動は川崎市の地下水の水量、水質、水辺地、水生生物を良好な環境に保全するかに取り組んでいます。この 2 年間は地下水汚染の未然防止を目的としてクリーニング事業者さんへの技術的な支援を行っています。</p>
10	NPO 法人ホールアース研究所	<p>静岡県富士宮市に本拠を置き、自然体験型の環境教育活動を 34 年にわたって行っています。通称：ホールアース自然学校として知られており、環境教育というカタチで次世代の社会につながる生き方・暮らし方の提案を続けています。10 年以上前から企業の CSR 活動支援を協働しており、労働金庫連合会とは 2005 年より、森づくり・人づくり・地域づくりに全国 5 か所で取り組む「ろうきん森の学校」を 11 年にわたり取り組んでいます。</p>
11	(公財) 日本野鳥の会	<p>公益財団法人日本野鳥の会は、1934 年に設立された自然保護団体です。「野鳥も人も地球の仲間」をキャッチフレーズに野鳥を通して自然環境の保全活動を行っています。自然保護の拠点であるサンクチュアリや行政からの委託や指定管理で自然系施設の管理、運営なども行っています。都立東京港野鳥公園の指定管理者として東京湾の自然環境保全に関わるとともに葛西・三枚洲をラムサール条約湿地</p>

		に登録する活動を支援しています。
12	NPO 法人 海さくら	目指せ！日本一楽しいゴミ拾い！をコンセプトに2005年12月より神奈川県江の島に、かつて生息していた「タツノオトシゴ」が戻ってくるようなキレイな海にする為「楽しい」「体験」「体感」をキーワードに、毎月ゴミ拾いや様々なイベントを開催しております。2016年5月より「ゴミ拾い・環境イベントポータルサイト BLUESHIP」を日本財団と共催で立ち上げました、環境イベントの情報を一元化することにより「食べログ」のように誰でも環境イベントに参加しやすく、どの団体でも簡単告知ができるサイトです。是非、皆さまにご利用頂きたく、海さくらの活動共々ご紹介させて頂きます。
13	特定非営利活動法人三番瀬環境市民センター	1988年から一貫して、東京湾奥の干潟浅海域・三番瀬の環境再生と、三番瀬の豊かさが感じられるまちづくりを目指して活動を展開。アマモ場や後背湿地など、三番瀬が失った自然環境の復元と、青潮対策の研究を軸に、観察会、環境学習講座などを実施して、担い手づくりにも取り組む。2003年～2013年まで、市川市の施設「三番瀬塩浜案内所」の管理・運営業務を受託したほか、干潟観察会、漁業体験、自然再生実験、市民参加型調査などの事業で地元行政や関係機関との連携、協働も行っている。
14	特定非営利活動法人江東区の水辺に親しむ会	江東区には多くの水辺があります。最初は水辺に親しみながら、地域と一緒に水辺を考えたいと江東区の水辺に親しむ会は活動を始めました。水辺のイベント水彩フェスティバルは、お江戸深川さくらまつり、リバーフェスタ江東へとつながりました。水辺の過去の歴史や川と地域の現在を考える水彩サロン、川でつながる小山市との交流、子供たちが水辺で親しめる小型ヨットの試乗会など水の輪が広がるように、活動の輪が広がっています。
15	NPO 法人 海辺つくり研究会	私たちは、沿岸域環境の保全・再生・創出や自然と共生する海辺つくりに関する事業を、先人の知恵や多くの市民の新しい知恵に学びながら、積極的に推進し、地域の振興や地球環境の保全に貢献することを目的に活動しています。
16	フィールドミュージアム・三番瀬の会	"三番瀬の自然環境フィールドと周辺自然環境の観察会を親子で観察し、記録を残す観察会及びイベント（展示・講演会）などを実施しています。 三番瀬の観察は四季の変化に伴い種や数、生体の変化を見せてくれ自然環境の大切さを体の五感で感じます。三番瀬の環境保全活動をされている多様な市民団体と交流出来る場を提供しています。この素晴らしい自然を市民が享受する事により、創造的な交流が生まれます。市民の活動で街づくりに発展させて行きます。
17	よこはま水辺環境研究会	横浜の良好な水辺環境の創世を図り、自然と共生する明るく住みよい街づくりを積極的に推進しながら、郷土の発展に寄与することを

		<p>目的に活動しています。自然を愛する人々で構成しています。自然を復元する為に研究を続けています。</p> <p>活動内容</p> <p>① ポートサイド地区における汽水域植生の継続調査</p> <p>② 新港地区における人工磯構築の実験</p> <p>③ 野島水路葦原の復元</p>
18	箱根植木株式会社	<p>人々が快適さや心地よさを感じる空間を、伝統的な庭園文化や園芸文化はもちろん、時代に応じた作庭技術や植物、景観や修景などに関する知識を駆使して創造するのが造園業です。</p> <p>私たち箱根植木はたんなる「庭づくり」にとどまらず、都市の環境改善や自然を活かした空間と時間の創出に取り組んでまいります。創業以来、緑地空間の設計・施工を通じて快適空間の創出をお手伝いしています。1953年に設立された箱根植木は、蓄積された造園技術を生かし、60年という歴史の中で、国営昭和記念公園（東京都立川市）の日本庭園をはじめ、丸ノ内ビルディング（東京都千代田区）品川インターシティ（東京都港区）、さいたまスーパーアリーナ（埼玉県さいたま市）、二子玉川ライズの商業施設の緑化と管理・企画運営、浜離宮恩賜庭園等の文化財庭園の改修や維持管理など、多数の案件を手がけてまいりました。</p>
19	東京建設コンサルタント	<p>東京建設コンサルタントは、1960年の創業以来、総合建設コンサルタントとしてさまざまな分野で実績を積み重ねてきました。そして、先端の技術者集団として、常に業界をリードしてきました。</p> <p>二十一世紀を迎え、ますます地球温暖化、人口問題、資源の涸渇が深刻化しています。人類が安全・安心で豊かな生活をするには、これらの問題を避けて通ることはできません。私たちは、このようなグローバルな視点で公共事業に取り組んでいます。</p>
20	株式会社工コー	<p>弊社は海洋、海岸及びそこに居住する人々の環境の保全・改善に係わるコンサルタントを目指し、当時としては先進的な志を持った会社として誕生しました。防波堤や護岸などの港湾・海岸構造物の設計についても力をつけて来ました。その中で昭和63年から始まった白島国家石油備蓄基地の災害復旧の調査・設計・施工管理や、その後における土木施設の維持管理に携わり、技術の幅を広げています。平成11年からは、海外における港湾・漁港・海岸に関する建設コンサルタント部門の営業権がテトラから譲渡され、その陣容を広げています。</p>
21	DTB(Discover Tokyo Bay)	<p>私達の目にする東京湾は黒く、とても快適なものとは言えません。ここで、自然豊かな東京湾を蘇らせるためには、どうすれば良いかを「とことん」考え、そのための計画を作っていきたいと思っています。数人のチームに分かれて、少しずつ作業して、素晴らしい計画を作成しましょう。</p>

22	労働金庫連合会	<p>「ろうきん森の学校」 2005年度から、NPO法人ホールアース研究所を全国事務局に全国3地区（福島・富士山・広島）で活動を展開してきました。2015年度からの10年間は、「第Ⅱ期」と位置づけ、活動拠点は、新たに2地区（新潟・岐阜）を増設し合計5地区で、「森を育む」、「人を育む」、「森で遊ぶ」を柱に、「森づくり」から始まる「人づくり・地域づくり」につなげる環境教育事業に取り組んでいます。</p>
23	東京湾の環境を良くするために行動する会	<p>「東京湾の環境」と「東京湾と人のかかわり」の現状と課題を知り、問題解決の必要性や意義についての共鳴・共感の輪がひろがり、課題解決に向けて自ら行動していく人の輪がひろがることを目指します。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1.多様な主体の協働による「東京湾の環境再生の促進」 2.「東京湾と人々のつながりの深化」 3.人々が東京湾を大切にし、東京湾からの恵みに感謝し楽しむ新しい文化の発展（「東京湾文化の発展」）
24	江東エコリーダーの会	<p>江東区が平成13年度から実施している「エコリーダー養成講座」の修了生によるOB会が発足した「江東エコリーダーの会」。環境保全の取り組みを区民に広げる活動をしている団体です。</p> <p>現在、えこっくる江東の環境学習講座である「みどりのカーテン講座」や「干潟観察会」などを実施しています。</p>
25	(株) LPD	<p>ランドスケープアーキテクトは、自然環境を守り育てると同時に、人間にとって快適な空間を提案するという、社会的責任の交差点に立ってきました。</p> <p>私たちは、プランニングからマネジメントにいたるプロジェクト全般にわたり、目標とする空間像を示し、複雑な土地開発に対して、独創性・感受性に富むアイデアと、迅速で効率の良いサービスを提案します。</p>
26	横浜未来街づくり（株）	<p>横浜市を世界一楽しく・住んでみたい・行って見たい・働きたい都市にする。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 大都市港湾である横浜港で、市民が自由に利活用出来るようにする。海洋国家日本のモデル地域を作る。 2 開港以来 150 年間に蓄積された資源を活用してオンリーワンを作る。 3 近代日本で先導的役割を果たしてきた役割を再現する。

2. 平成 28 年度 第 2 回 CSR – NPO 未来交流会開催

開催日：平成 28 年 12 月 8 日（木）13:00～16:30

場 所：東京都千代田区麹町 5 – 1 弘済会館 4F（萩）

参加団体：16 団体、21 名

内 容：

- 交流会に先立ち、アクセンチュア株式会社から、「CSR 活動を通じた『大企業と NPO の協力の在り方』」の講演が行われ、これまでの仕組みとは違う形の、企業から市民団体等への支援の仕方が紹介されました。続いて、行政・市民・学校・研究者のマッチング事例として、一般社団法人横浜水辺のまちづくり協議会から「市民活動における横浜港インナーハーバー利用とルールづくり」、その後、行政・NPO のマッチング事例として、NPO 法人たてやま・海辺の鑑定団から「南房総館山・沖ノ島の自然環境保全と活用の仕組みづくり」の活動事例を紹介して頂きました。
- 交流会では、4 グループに分かれて、活発な議論と紹介が行われました。あっという間の時間経過で、さらに深めた交流が期待できました。

◆開催内容（プログラム）

交流会プログラム 13:00～16:30		
時間	内容	発表
13:05	主催者挨拶	東京湾再生官民連携フォーラム議長
13:10～ 13:40	講演－1 協働マッチングの取り組みに向けて CSR 活動を通じた「大企業と NPO の協力の在り方」	アクセンチュア株式会社 管理本部 マネジャー 飯笹 俊幸 シニア・マネジャー 藤野 良
13:40～ 14:00	講演－2 協働マッチング事例（行政・市民・学校・研究者） 「市民活動における横浜港インナーハーバー利用とルールづくり」	一般社団法人横浜水辺のまちづくり 協議会 理事 竹口 秀夫
14:00～ 14:20	講演－3 マッチング事例（行政・NPO） 「南房総館山・沖ノ島の自然環境保全と活用の仕組みづくり」	NPO 法人たてやま・海辺の鑑定団 理事長 竹内 聖一
14:40～ 16:10	交流会：参加企業、参加 NPO 等交流	各テーブルごとによる交流の実施
16:10～ 16:20	質疑応答	今までの質疑の受付
16:25	閉会	

	団 体 名	活 動 紹 介
1	一般社団法人海洋連盟	<p>「海辺に人が集まれば日本はもっと楽しくなる」というスローガンの元、海おこしを行っています。毎年、海賊ごっこをしながら海を学ぶ「海の教室」を行っており、昨年は秋田から沖縄まで計 6 か所 400 名超で乗船体験、郷土料理体験、ビーチクリーン、クイズラリーを行いました。また、海のポスターコンテスト「うみぼすグランプリ」も全国で実施し、昨年は 60 回のポスター作りワークショップを全国で行い、2,000 件超の応募を集めました。</p>
2	東京湾大感謝祭実行委員会	<p>東京湾大感謝祭は、官民が東京湾再生のために協働して開催する唯一のお祭りです。</p> <p>市民や企業、団体と国や自治体がともに連携しあいながら、海の再生を考え、行動するきっかけを提供する場として、2013 年秋に初開催され、2016 年は横浜赤レンガ倉庫・周辺海上を舞台に開催され、9 万 8 千名の方々にご来場いただきました。</p> <p>21 世紀にふさわしいライフスタイルのあり方などを考え行動していくために、多くの方のご参加をお待ちしています。</p>
3	NPO 法人 印旛沼広域環境研究会	<p>印旛沼広域環境研究会は、2000 年に認証を得て、2004 年の国際コメ年には「印旛沼流域の循環型農業の確立を目指して」、堂本千葉県知事出席の下、フォーラムを行いました。しかし、閉鎖性湖沼の沼に対して流域市民約 80 万人に関心は薄く、約 140 万の千葉県民の飲み水としても直接浄化コスト約 19 億円/年となっており、しかも汚れ度も全国ワーストワンとなっていることから、まず千葉県民に沼の現況を知見してもらうためにトキの誘致運動を行っています。</p>
4	NPO 法人 海の森・山の森事務局	<p>横浜市内を流れる大岡川を陸上班と SUP 班とを組織して、川縁から川中までのプラスチックゴミを中心としたゴミ拾いを展開。東京湾へのプラスチックゴミの流出を防ぐべく活動しています。独自のメディアである「大岡川ニュース」(年 4 回、3,000 部/回、A3 判オールカラー 4 ページ)も発行して、活動報告も兼ねながら参加者・協力者を集めています。横浜から情報発信し、全国の里川・里海の環境改善につなげていこうと考えています。</p>

5	一般社団法人 ブルー東京湾	2020年オリンピック・パラリンピック東京大会という機会を捉え、もう一度、多くの人々に愛される東京湾を取り戻すために活動しています。また、それにより市民参加が活発なより豊かな社会の実現を目指しています。主な活動は、①観察しながら歩くフィールド調査、②地域住民との意見交換、③議会への傍聴、④NPO との連携、そして、⑤それらを基にした自治体への提言です。
6	NPO 法人 江戸・商店観光振興会	我が国は江戸期になって街道や脇往還、海運・水運が発達し、道中図など様々な絵図が作られ、寺社参詣などを名目とする庶民の物見遊山が急増し、宿場には旅籠屋や茶屋も増え、名物や物産も生まれました。特に江戸は、当時の世界一の人口を誇り、観光・商業・水運で繁栄を極めました。当法人では、街や商店街の「観光資産」として、「江戸（江戸以前も含む）から残る歴史史跡」に着目し、「観光資産」と街・商店街を結びつけることで町づくり、商店街振興につなげることを目指します。
7	ヨコハマ海洋市民大学	ヨコハマ海洋市民大学は、大さん橋（旧鉄棧橋）の竣工から120周年を機に、横浜の海に想いのある人が集まり学びの場を作ろうと活動をしたことから始まった手作りの市民大学です。2014年4月にスタートし、年間を通して20回の講座を開講しています。横浜市各地域から「海洋に配慮したまちづくり」に関心の高い市民に参加いただき「各地域に合致した環境活動の提案、地域を巻き込み実施することができる人材の育成＝海洋都市づくりリーダーの育成（海洋教育デザイナー）を目的としています。また、市民協働のインターフェースとして、海に関わる活動をする団体、市民のプラットフォームとして機能することを目的としています。
8	特許事務所グリーンワールド	特許業務法人グリーンワールドは、特にハイテク系のベテラン弁護士2名が、日本の最先端の技術の知財を守るために成立した、新しい特許業務法人です。 「特許事務所グリーンワールド」は特に日本のハイテク系特許に特化した特許取得、得た知財をいかに使うかのコンサルティングをして、日本の技術と知財の世界を大きく広げることを目的として設立されました。
9	特定非営利活動法人 UP	今、心に抱えているものを軽くしてみませんか。NPO UP は、「人として生きる」という原点を見つめ直し、未来の日本・世界を担う子どもたち、そしてそんな子どもたちを育む大人たち、社会をサポートするために設立されました。

10	一般社団法人 横浜水辺のまちづくり協議会	横浜港を中心とする海や川の水辺利用に関連して、水辺のいっそうの活用と環境の改善を目指し、 ① 次世代への海洋教育（大学生のシーカヤック乗艇授業） ② 水辺利用に関心を持つさまざまな主体が自由な立場で検討し提案するための交流の場を提供（横浜港関係者交流シーカヤック体験会） ③ 新たな観光的魅力を向上させることによって、横浜市の健全な発展を目指す（横浜をもっと面白くする研究会） 等の事業を行っています。
11	NPO 法人 森の学校	森の学校は、自然の中で遊び学ぶ体験の中から、生きる喜びを発見し、生きる知恵と力を育む自然学校です。以下に取り組みをあげます。 里山の木造校舎とその周りの自然の中で行う子どもキャンプ（ハックルベリー くらぶ） ・小学生を対象とした自然体験型環境教育プログラム（ハックルベリーくらぶ） ・田んぼを通じた環境教育（田んぼの教室） ・都市の幼児を対象とした環境教育（ふくるる森のようちえん） ・里山の木造校舎とその周りの自然の中で行う親子キャンプ（ハックルベリーファミリー）
12	江東エコリーダーの会	平成 19 年 3 月 3 日に設立。会の目的は、 ・江東区の環境問題の解決に貢献する ・エコリーダーの活動を支援（サポート）する ・エコリーダーの活動等、「環境」の情報を発信する ・会員の交流と親睦をはかる ことです。 実績は、環境フェア参加 「みどりのカーテン」と新砂干潟のパネル展示 隅田川クリーンアップ大作戦、区民まつりの参加 など
13	NPO 法人 東京湾海洋倶楽部	2009 年 5 月設立。主に千葉県を中心として活動し、現在海洋スポーツ振興に注力しています。 設立以来の主な活動実績として、ヨット教室、繫留指導、船を利用した災害活動に参画し、地域活性化並びに周辺環境美化に寄与しています。

14	特定非営利活動法人 水産衛生管理システム協会	平成 9 年 11 月民間会社 20 社が参加した大日本水産会 HACCP 研究会を設立し、岩手県大船渡市魚市場整備基本構想及び基本計画策定に参加後、大日本水産会・水産庁の水産物基地流通効率化事業へ参画。平成 17 年 6 月に NPO 法人 水産衛生管理システム協会を設立し、閉鎖式で衛生管理を徹底・スラリー氷採用を提案しました。大船渡市の新魚市場は国、岩手県、大船渡市の支援によって建設され、約 100 億円を投入し平成 29 年に完成します。
15	特定非営利活動法人 Kids of Earth	わたしたち Kids of Earth は、2015 年 12 月に誕生した板橋区の NPO 法人です。「地球が笑顔になる」を基本理念に、地球を取り巻く大きな循環が自然にめぐる社会の実現を目指して活動しています。現在は自然栽培を中心とした循環に寄り添った農を営んでいる農家さんと協力し、学童に通うこども達への教育プログラム提供を主な活動としています。
16	NPO 法人 海辺つくり研究会	2001 年にスタートし様々な経験、知識、技術を有するものたちを会員として「海辺つくり研究会」を設立しました。以来、国内の沿岸域を中心に、 <ol style="list-style-type: none"> 1.海の自然に学ぶ、 2.先人の知恵に学ぶ、 3.多くの市民から新しい知恵を引き出す、 4.工学的技術と調和した新たな環境創造技術やその進め方について研究する などの活動を行い、良好な海辺環境の保全・再生・創出に貢献しています。また、多くの地域の市民グループと積極的に連携し、支援活動を行うこと、本会においては、沿岸域における良好な自然環境の保全・再生・創出に関する事業を行い、自然と共生する海辺つくりを積極的に推進しながら、地球環境の保全に力を注ぎます。
17	NPO 法人 隅田川ローイングクラブ	昭和 63 年 6 月設立。墨田区と江戸川区の間を流れる旧中川を活動拠点とするボート競技のクラブです。 ボート競技の普及を目指すほか、練習では会員相互の親睦を図り自由な雰囲気の中でボート競技を楽しみます。 主な活動は、 <ul style="list-style-type: none"> ●東墨田ボート教室の開催(月 1 回) ●ジュニア/シニアローイング教室(会員練習) ●ジュニアアスリート発掘事業の支援 ●各地レガッタの参戦及び支援 ●中学生・高校生参加の各大会への参戦及び支援 ●指導者要請及びライセンス取得の支援 です。

《交流会の結果》

- ・本年度、第1回の交流会は参加組織 26、第2回 参加組織 17 となり交流会を運営するにおいては、若干少ない程度で、適度な参加者数となりました。
- ・参加の内訳は、第1回、2回を通して上場企業は1社に留まり、企業参加の数を増やすことが重要となります。参加動機は様々ですが、ISO、生物多様性というキーワードがどの程度の状況なのかを把握するといった視点からの参加となっています。
- ・企業・組織規模により実情は様々ですが、その動機には企業側とすると、より良いパートナーの発見、新しく赴任してきたので、または新しい計画を作成するので、その思考、試行のための第一段階程度ととらえて参加するなど、これからの取り組みに向けての前向きな姿勢が見られた。
- ・特に2回目は企業参加が少なく、NPOの異業種交流会に近くなり、それぞれ活動分野が異なる面、意見交換が活発に行われました。

取り組みテーマの重要性は、下記のご意見からも次のステージにつなげていきたい。

〈参加組織のご意見〉

- ・今回初めて参加しましたが、企業者の参加が少ないと思いました。ISO28000でもCSRからSRに変わり、企業の責任ばかりではなく、行政機関を含めたあらゆる組織がその組織にとって望ましい在り方に注目していけば、SRは当たり前のことになり、市民社会文化も醸成されていくものと考えています。
- ・弊社は東京湾の再生に取り組んでいるわけではないので、最初は何となく違和感があったが、交流会で、東京湾に関わらず、企業とNPOの連携・協働の話ができてよかった。
- ・当日もお話がありましたが、具体的なアクションに結びつくような会であると嬉しいです。
- ・第Ⅱ部の交流会は、多くの団体の方と直接交流をすることができて大変有意義でした。細かい、ご配慮をありがとうございます。「東京湾再生官民連携フォーラム」というのを、お手紙をいただきはじめて知った次第で、申し訳ありません。どのようなフォーラムなのだろうと関心を持って参加させていただきました。参加団体それぞれの専門(得意)分野を活かして、良い方向に行くことができればと思います。

(プログラムについて)

- ・CSRに関するISO28000規格に関する最新情報(CSRからSRになったことなど)
- ・より多くの企業とNPOの連携・協働の具体的事例を紹介してほしい

3. CSR-NPO 未来交流会 企業・行政等施設見学会

開催日：平成 28 年 9 月 15 日（木） 13：00～17：00

場 所：高島水際線公園、横浜港港内および国土交通省 関東地方整備局 横浜港湾空港技術調査事務所構内

主 催：東京湾再生官民連携フォーラム

協 力：高島水際線公園愛護会、国土交通省関東地方整備局

●プログラム

13：00～13：15 横浜駅東口 集合

13：15～13：30 移動

13：30～14：00 独立行政法人 都市再生機構 高島水際線公園（人工干潟潮入の池） ①

14：00～14：10 移動

14：10～15：40 横浜港見学

（国土交通省 関東地方整備局 京浜港湾事務所所有港湾業務艇たかしまⅡに乗船）②

15：40～15：50 移動

15：50～16：50 国土交通省 関東地方整備局 横浜港湾空港技術調査事務所人工干潟潮彩の渚 ③
および千葉港湾事務所所有清掃船兼油回収船べいくりん ④

16：50～17：00 移動

17：00 横浜駅 解散

（※見学施設位置は、事項の位置図を参照してください）

●見学コース

① 独立行政法人 都市再生機構 高島水際線公園（人工干潟潮入りの池）

② 横浜港見学（国土交通省 関東地方整備局 京浜港湾事務所所有 港湾業務艇たかしまⅡに乗船）

③ 国土交通省 関東地方整備局 横浜港湾空港技術調査事務所 人工干潟 潮彩の渚

④ 国土交通省 関東地方整備局 千葉港湾事務所所有清掃船兼油回収船べいくりん





Ⅶ. 政策提案・「東京湾パブリックアクセス方策に関する第一次政策提案」に関する提案書（資料 1 参照）

10月22日（土）の東京湾再生官民連携フォーラム 平成28年度通常総会において、「東京湾パブリックアクセス方策に関する第一次政策提案」承認されました。

「人々が、手軽に海に行ける既存のアクセスを広く紹介する」提案をまとめた。

情報提供機能の充実、情報拡充を提案した。情報提供手段として、情報化技術の活用を提案した。例えばスマートフォンのGPS機能と連動した音声ガイドシステムや、アクセスルート全体像が一覧できるマップの作成と普及などを提案している。提案をまとめるにあたり、企画運営委員会で検討、沿岸自治体との意見交換、フォーラム会員の方々のご意見・要望の収集（メール配信による事前説明による意見集約）など各界のご意見をいただき、現在の提案内容に至った。

Ⅷ. プロジェクトチームの活動状況

◇モニタリングPT（PT長 横浜国立大学 客員教授 古川 恵太）

平成28年度の活動

1. 「アサリわくわく調査」の実施

「アサリわくわく調査の概要」

開催日：平成28年年6月5日（日）

場 所：横浜市金沢区 野島

交 通：金沢シーサイドライン 野島公園駅下車 徒歩10分

主 催：東京湾再生官民連携フォーラム、東京湾環境モニタリング推進PT

協 力：国土交通省国土技術政策総合研究所、東邦大学東京湾生態系研究センター

実地概要：今年で3年目を迎える「江戸前アサリわくわく調査」を横浜市金沢区野島干潟で実施。野島干潟は自然の潮干狩り場となっていて、毎年たくさんの潮干狩り客が訪れます。しかし、それでもアサリがいなくなることはないほどアサリが湧くところです。調査方法の学習と共に、様々な殻模様を持つ江戸前アサリの「アサリ紋様粋さコンテスト」も実施。

調査指導：風呂田 利夫（東邦大学名誉教授／フォーラム会員）

2. 平成28年度東京湾環境一斉調査ワークショップ

開催日：平成28年12月26日（月）

場 所：中央合同庁舎4号館12階共用1202会議室

議 題：東京湾再生推進会議モニタリング分科会と協働でワークショップを開催し、東京湾環境マップの作成に向けての議論・検討の実施 等

2017年1月～2月：東京湾環境マップの作製（編集、印刷作業など）。

2月20日のマップ完成をめざして予定。

2017年 3月：PTメンバー、関係各所への配布（予定）

◇生き物生息場づくりPT第2期の活動（PT長 東京大学大学院 教授 佐々木 淳）

第1回PT会議 平成28年年3月25日

場 所：みなと総合研究財団会議室

1. メンバー自己紹介
2. これまでのPT活動と今後のPT活動の趣旨説明（佐々木）
3. PT活動の体制について（佐々木）
4. 話題提供と個別の活動案に関する協議
5. 今後のスケジュールについて
6. その他

第2回PT会議 平成28年年7月1日

場 所：みなと総合研究財団会議室

1. 話題提供と意見交換

梶山氏：貧酸素水塊、底質調査、底生生物調査、産卵場候補、浅場造成主体に具体的な改善策の想定など

2. 今後の予定について

第3回PT会議の開催9月1日予定

3. その他

議事六の取り扱いについて

第3回PT会議 平成28年年9月1日

場 所：みなと総合研究財団会議室

1. 報告 アクセンチュアポイントプログラムについて
2. 話題提供と意見交換
塚崎氏（産総研）
3. 東京湾大感謝への出展について
パネル2枚、資料配布+適宜説明
4. 今後の予定

第4回 PT 会議 平成 28 年年 11 月 9 日

場 所：みなと総合研究財団会議室

1. 東京湾大感謝祭報告と次年度に向けた意見交換
2. 話題提供と意見交換
大村氏（国交省関東地整）
3. 政策提案に向けた意見交換
4. 今後の予定
1月 第5回（予定）
3月 第6回（予定）

第5回 PT 会議 平成 29 年年 1 月 13 日

場 所：みなと総合研究財団会議室

1. 前回話題提供のフォローアップ
2. 話題提供と意見交換
3. 政策提案「マコガレイ産卵場の底質改善について」の課題の整理
4. 他の課題の整理と役割分担
5. 今後の予定について

第6回 PT 会議 平成 29 年年 3 月 29 日

場 所：みなと総合研究財団会議室 1. 前回話題提供のフォローアップ

2. 話題提供と意見交換
3. 政策提案「マコガレイ産卵場の底質改善について」の課題の整理
4. 他の課題の整理と役割分担
5. 今後の予定について

◇指標活用 PT（PT 長 国土交通省国土技術政策総合研究所 海洋環境研究室長 岡田 知也）

第1回 市民データ WG（指標活用 PT）

開催日：平成 28 年 2 月 16 日（火）

場 所：みなと総合研究財団会議室

議 題：

1. 市民データの具体的な収集方法についての方向性の議論

第2回 市民データ WG

開催日：平成 28 年 3 月 9 日（水）

場 所：みなと総合研究財団会議室

議 題：

1. データシート（叩き台）の作成
2. 対象団体に関して
意見照会の方法（日程，方法等）
WG のスケジュール

第3回 市民データ WG (指標活用 PT)

開催日：平成 28 年 3 月 29 日 (火)

場 所：みなと総合研究財団会議室

議 題：

1. データシート (叩き台) の確認
2. データシートに関して、本番調査の前の事前の意見照会 (【海のゴミ】、【水遊び】)
3. 本番調査
4. Web 検索キーワードについて

第3回 指標活用 PT

開催日：平成 28 年 4 月 12 日 (火)

場 所：みなと総合研究財団会議室

議 題：

1. メンバーの異動
2. 市民データ WG 活動報告
3. 昨年度のデータ整理について
4. その他

第4回 市民データ WG (指標活用 PT)

開催日：平成 28 年 8 月 25 日 (木)

場 所：みなと総合研究財団会議室

議 題：現在展開中の市民データの収集が、8 月 12 日で一応締切り。

各指標の作業工程

感謝祭 (10 月 22 日・23 日) に向けた作業

作業内容

1. アンケート結果の整理
2. 情報発信
3. 科学論文
4. 監視・パトロール (ヒアリング) (岡田→ウォーターリスクマネジメント協会)
5. 藻場 (ヒアリング)
6. 江戸前の販売・イベント (ヒアリング)
7. その他

第5回 市民データ WG (指標活用 PT)

開催日：平成 28 年 9 月 28 日 (水)

場 所：みなと総合研究財団会議室

議 題：

1. 市民データの集約・整理結果の打ち合わせ/感謝祭 (10 月 22 日・23 日) に向けた作業
2. 情報発信
3. 科学論文
4. 監視・パトロール (ヒアリング)
5. 藻場 (ヒアリング)

6. 江戸前の販売・イベント（ヒアリング）

7. その他

◇東京湾大感謝祭 PT（PT長 NPO 法人海辺つくり研究会 理事・事務局長 木村 尚）

平成 28 年 第 4 回東京湾大感謝祭実行委員会

開催日：平成 28 年 4 月 5 日（火）

会 場：みなと総合研究財団会議室

議 事：

1. 前回確認
2. WG 進捗報告
3. エントリー企画について
4. 出展営業状況報告
5. その他（東京都トライアル開催、南房総白浜海女まつり（ほか）

平成 28 年 第 5 回東京湾大感謝祭実行委員会

開催日：平成 28 年 5 月 12 日（木）

会 場：みなと総合研究財団会議室

議 事：

1. 前回確認
2. 2015 年度 収支決算報告
3. WG 進捗報告
4. エントリー企画について
5. 出展営業状況報告
6. その他（東京都トライアル開催、東京湾再生アンバサダーからの情報提供の依頼（ほか）

平成 28 年 第 6 回東京湾大感謝祭実行委員会

開催日：平成 28 年 6 月 2 日（木）

会 場：みなと総合研究財団会議室

議 事：

1. 前回確認
2. WG 進捗報告
3. エントリー企画について
4. 出展営業状況報告
5. その他（アンバサダー参加依頼、表彰制度、横浜市景観使用、NPO・CSR マッチング、海の日イベントへの協力、横浜市との協定（ほか）

平成 28 年 第 7 回東京湾大感謝祭実行委員会

開催日：平成 28 年 7 月 8 日（金）

会 場：みなと総合研究財団会議室

議 事：

1. 前回確認
2. WG 進捗報告

3. エントリー企画について
4. 出展営業状況報告
5. その他（NPO・CSR マッチング、横浜市との協定、（ほか）

平成 28 年 第 8 回東京湾大感謝祭実行委員会

開催日：平成 28 年 8 月 5 日（金）

会 場：みなと総合研究財団会議室

議 事：

1. 前回確認
2. WG 進捗報告
3. エントリー企画について
4. 出展営業状況報告
5. その他（文部科学省への後援申請、横浜市との協定、（ほか）

平成 28 年 第 9 回東京湾大感謝祭実行委員会

開催日：平成 28 年 9 月 8 日（木）

会 場：みなと総合研究財団会議室

議 事：

1. 前回確認
2. WG 進捗報告
3. エントリー企画について
4. 出展営業状況報告
5. その他（館山連携イベント、横浜市との協定（ほか）

平成 29 年 第 1 回東京湾大感謝祭実行委員会

開催日：平成 29 年 1 月 17 日（火）

会 場：テンポランド・スマート会議室

1. 委員長の選出 実行メンバーの変更
2. 2017 年基本事項の確認
3. 出展営業チラシについて など

平成 29 年 第 2 回東京湾大感謝祭実行委員会

開催日：平成 29 年 2 月 24 日（金）

会 場：テンポランド・スマート会議室

1. 前回確認
2. 企画テーマ及び概要（案）について
3. その他

平成 29 年 第 3 回東京湾大感謝祭実行委員会

開催日：平成 29 年 3 月 31 日（金）

会 場：TKP スター会議室 虎ノ門 カンファレンスルーム 501

1. 前回確認
2. 企画テーマ及び概要（案）について
3. 東京湾大感謝祭 2016 決算見込（案）について

4. その他

◇パブリックアクセス方策・検討 PT (PT 長 NPO 法人 横浜創造まちづくり学会 会長 竹口 秀夫)

平成 28 年度第 1 回うちあわせ会合

開催日：平成 28 年 4 月 18 日 (月)

場 所：みなと総合研究財団会議室

1. 平成 27 年度第 4 回企画運営委員会 (平成 28 年 3 月 17 日開催) の概要
2. 東京湾パブリックアクセスに関する提案 (素案) に対する意見と対応
3. 東京湾パブリックアクセス方策に関する説明資料 (案)
4. 東京湾パブリックアクセス方策に関する第一次政策提案 (案)
5. その他

平成 28 年度第 2 回うちあわせ会合

開催日：平成 28 年 6 月 17 日 (金)

場 所：みなと総合研究財団会議室

第一次政策提案についての修正等議論・検討

平成 28 年度第 3 回うちあわせ会合

開催日：平成 28 年 8 月 25 日 (木)

場 所：みなと総合研究財団会議室

1. 第一次政策提案の練り上げ
2. パブリックアクセス湾岸自治体意見交換会報告
3. 意見照会と対応、今後の予定
4. その他

平成 28 年度第 4 回うちあわせ会合

開催日：平成 28 年 10 月 12 日 (水)

場 所：みなと総合研究財団会議室

政策提案 最終 PT 説明

平成 28 年度第 5 回うちあわせ会合

開催日：平成 28 年 12 月 16 日 (金)

場 所：地中海レストラン「キャプテンズワーフ」

会 場：クルージング船

1. PT の現状と今後の進め方
2. 平成 29 年度の取り組みと日程について

平成 28 年度第 6 回うちあわせ会合

開催日：平成 29 年 2 月 15 日 (水)

場 所：みなと総合研究財団会議室

1. PT 活動の今後の進め方
 - (1)政策提案のフォローアップ
 - (2)第二次政策提案に向けて
2. 東京湾における船舶活用方策の検討

3. その他

(1)観光系の情報提供の実情

◇東京湾での海水浴復活の方策検討 P T

(PT 長 認定 N P O 法人ふるさと東京を考える実行委員会 理事長 関口 雄三)

今年度の活動は平成 28 年年 5 月 23 日 城南島海浜公園のヒアリング調査実施。

現在の「市民ニーズ」や「海水浴を可能にするうえでクリアすべき事項の調査」、「これまでの試行経験の交流」などの検討を通じて、課題解決や試行拡充の方策を検討し、海水浴の可能性の検討と政策提案を行う。

◇江戸前ブランド育成 P T

総会への活動報告をおこない。現在事務局で PT 長の適任役を含めて、今後の活動検討を調整。

平成 28 年度第 1 回江戸前ブランド育成 P T 会合

開催日：平成 28 年 4 月 4 日 (月)

場 所：みなと総合研究財団会議室

1. P T 長候補選出の検討
2. 今後の P T 活動について

PT 長の交代 7 月から新任・牧野 PT 長

前任：(P T 長 元水産庁漁政部加工流通課課長補佐 上田 勝彦)

後任：国立研究開発法人水産研究・教育機構 中央水産研究所経営経済研究センター
漁業管理グループ長 牧野 光琢

ミッション：多くの魚介類が獲れる東京湾の魅力を、「江戸前」という言葉に乗せて、加工品や料理の魅力を具体的に味わうことのできる東京湾として発信し、高度成長期の湾岸開発による被害から立ち直りつつある都市隣接型のこの海を、我が国、ひいては世界における再生のモデルとして、広く伝えることをねらいとする。またその活動を通して、湾岸に住む人の暮らしの変化に伴いこれからも変わりゆくであろうこの海の、過去・現在・未来の姿を、「江戸前の魚」を通して検証し、この海のブランド性を追究する。

平成 28 年度第 2 回江戸前ブランド育成 P T 会合

開催日：平成 28 年 10 月 13 日 (木)

場 所：みなと総合研究財団会議室

内 容：江戸前 PT としての感謝祭への出し物の企画案を作成しております。水産庁とも協議のうえ、現在のところ、魚介類のうま味に関する体験コーナーや、江戸前の魚食文化に関する情報提供などを予定。

1. 東京湾大感謝祭におけるでのプレゼン方法
2. 他団体との連携
3. 今後の活動 (予定)

平成 28 年度第 3 回江戸前ブランド育成 P T 会合

開催日：平成 29 年 3 月 27 日 (月)

場 所：郵政福祉虎ノ門第 2 ビル 1 階スマート会議室

議 題：

1. 東京湾大感謝祭 2017 企画案について
2. 今後の江戸前 PT の活動内容について

◇東京湾浅瀬再生実験 PT (PT長 (株)つり人社 代表取締役会長 鈴木 康友)

東京湾浅瀬再生実験 PT 初会合

開催日：平成 28 年 9 月 5 日 (月)

場 所：みなと総合研究財団会議室

議 題：

1. 趣旨説明、
2. 自己紹介
3. 千葉県漁連の取り組み
4. 今後の具体的な活動内容とスケジュール感に関して
5. 「浅瀬」のイメージに関して
6. スラグに関して

東京湾浅瀬再生実験 PT 第二回会合

開催日：平成 28 年 11 月 25 日 (金)

場 所：みなと総合研究財団会議室

議 題：有明海/八代海での干潟・浅場再生実験 事例紹介 (株日本港湾コンサルタント)

東京湾浅瀬再生実験 PT 第三回会合

開催日：平成 29 年 1 月 27 日 (月)

場 所：みなと総合研究財団会議室

議 題：横浜港における干潟・浅瀬の現状 (横浜市港湾局)

◇東京湾の窓 PT (PT長 谷津干潟ワイズユース・パートナーズ 芝原 達也)

東京湾の窓 PT 第 1 回会議

開催日：平成 28 年年 7 月 13 日

場 所：みなと総合研究財団会議室

1. メンバー自己紹介
2. 東京湾再生連携フォーラムについて
3. プロジェクトの趣旨について
4. 課題を絞るための問題意識の共有
5. 今後の活動についての検討

東京湾の窓 PT 第 2 回会議

開催日：平成 28 年年 9 月 27 日

場 所：みなと総合研究財団会議室

1. 東京湾大感謝祭の企画検討
2. 施設・団体リストの検討
3. 東京湾再生官民連携フォーラムのイベントカレンダーの検討

4. 浦安でのイベントの検討
5. 次回の開催日程について

東京湾の窓 PT 第3回会議

- 開催日：平成28年12月6日
 場所：みなと総合研究財団会議室
1. 東京湾大感謝祭の振り返り
 2. 今後の活動について
 3. その他
 4. 次回開催日程

IX. 広報活動 / 交流会参加 1. 経団連自然保護協議会のシンポジウムおよび交流会の参加

1. シンポジウム 共催 公益信託経団連自然保護基金
 開催日：5月30日（月）13:00～16:00
 場所：経団連会館 2階（経団連ホール北）
2. 企業とNGO等との交流会（取組紹介）共催 公益信託経団連自然保護基金
 場所：経団連会館 5階 501・502号室（パールルーム）
 交流会は、フォーラム活動の活動を紹介するとともに、フォーラム主催の未来交流会の開催案内および東京湾大感謝祭の実施を紹介。



1. 会員へのメール配信

会員への情報提供は、東京湾-News Letterとして実施し、平均週1回の配信で、平成28年4月1日～平成29年3月31日 配信数：52件行いました。（資料2「東京湾-News Letter」）

2. 東京湾大感謝祭開催概要

- 催事名：東京湾大感謝祭2016
 会期：平成28年10月21日（金）～23日（日）10:00～17:00
 ※21日（金）は午後より東京湾シンポジウムのみ
 会場：横浜赤レンガ倉庫（広場・1号館）
 横浜赤レンガ倉庫周辺海上（ピア象の鼻、赤レンガプロムナード、運河パーク）
 主催：東京湾大感謝祭実行委員会
 共催：国土交通省関東地方整備局 環境省 東京湾再生官民連携フォーラム
 （一財）みなと総合研究財団東京湾の環境をよくするために行動する会
 横浜港ボート天国推進連絡協議会
 後援：東京湾再生推進会議 文部科学省 海上保安庁 水産庁 国土交通省関東運輸局

(国研) 海洋研究開発機構 (国研) 水産研究・教育機構 埼玉県 千葉県 東京都 神奈川県

さいたま市 千葉市 川崎市 横浜市 横須賀市 横浜港運協会 (公財) 横浜観光コンベンション・ビューロー (一社) 横浜港振興協会 横浜エフエム放送 (株) 経団連自然保護協議会

協賛: (株) アスカ ESR (株) (株) カーニバル・ジャパン (株) 銀座サクラヤ (株) クルー・エレクトック
清水建設 (株) 大和ハウス工業 (株) 戸田建設 (株) (株) 中村住装日本工営 (株) 日本ミクニヤ (株)
藤木企業 (株) BOZLES (株) ミキ・ツーリスト 三井アウトレットパーク 横浜ベイサイド 三井
不動産 (株) リビングワークス (株)

協力: (一財) セブン-イレブン記念財団 (一財) 日本海洋レジャー安全・振興協会 (公財) 日本釣振興会横浜港ポート天国実行委員会 (株) ロイヤルウイング (株) ポートサービス 京浜フェリーボート (株) ホテルニューグランド 横浜ロイヤルパークホテル (株) スターホテル (株) ホテルメルパルク横浜 (公財) 帆船日本丸記念財団 (公財) 東京動物園協会葛西臨海水族園 (株) 横浜八景島 UMI 協議会 マリンジャーナリスト会議 日本釣りジャーナリスト協議会 横浜ベイサイドマリーナ (株) ケーエムシーコーポレーション 都漁連内湾釣魚協議会 東京湾遊漁船業協同組合 千葉県漁業協同組合連合会 (公財) ブルーシー・アンド・グリーンランド 財団下水道広報プラットフォーム NPO 法人海辺づくり研究会横浜 SUP 倶楽部ハマの海を想う会 (資料3 会場内アンケート)

来場者数: 9万8千人/3日間



3. 港湾空港タイムスによるフォーラム特集

東京湾再生官民連携フォーラム活動とプロジェクトチームの活動紹介が、港湾空港タイムスで連載記事になりました。連載は平成28年8月22日号掲載に始まり平成28年12月26日号掲載に至る都合10回にわたりました。(港湾空港タイムスは、毎週月曜日発行 ブランケット判4ページで都市計画通信社発行の業界紙) (資料4 掲載記事)

4. 東京湾再生アンバサダーの活動

日本テレビ「所さんの目がテン！」2017年1月8日(日)朝7時~放送は、アンバサダー・榎太一アナウンサー持ち込み企画により東京湾の活動が取り上げられました。

近年、東京湾の水質が改善し魚介類が帰ってきた！そこで…江戸時代の料亭料理を再現できるか大挑戦。東京湾での食材探しを通して、現在の東京湾の再生活動を紹介。

5. 遊ぶ。暮らす。育てる。SATOYAMA & SATOUMI へ行こう 2017 への参加

新しいアプローチで、地域(里山や里海)の景観と暮らしを考え、そこでの生活や文化、景観の再生を図る為のきっかけとなる運動で、フォーラム活動のPRと東京湾大感謝祭のPRを実施

日時: 2017年3月25日(土)~2017年3月26日(日)

会場: 幕張メッセ展示ホール2,3

6. 東京湾イベントカレンダーオープン

東京湾再生官民連携フォーラムは、HP サイト上で、おもに東京湾に関するテーマを扱っているイベント、公開セミナー、シンポジウム、体験教室、自然観察会などの開催情報を一目でわかる「東京湾情報カレンダー」をオープンいたしました。

<http://tbsaisei-csr.net/cal/>

7. 東京湾再生官民連携フォーラムから東京湾再生推進会議へ3つ目となる政策提案を実施

提 案：東京湾再生行動計画(第二期)に活用すべき「パブリック・アクセス」に関する提案

日 時：2017年3月30日

場 所：霞が関中央合同庁舎4号館の海上保安庁総務部参事官室

東京湾再生官民連携フォーラム 来生 新 議長から、東京湾再生推進会議幹事長・モニタリング分科会主査 海上保安庁総務部 石澤龍彦 参事官に手渡されました。来生議長からは、官民が様々議論した結果なので十分にご検討いただきたい旨の要望が述べられ、石澤参事官からは、貴重な提案なので大事に考えてゆきたい旨の回答が述べられました。



海上保安庁参事官室における政策提案書手交の様子
右から石澤参事官、来生フォーラム議長、竹口PT長

X. フォーラム平成28年度決算

平成28年度決算

2017/5/11

【収入の部】

(単位:円)

科 目	H28年度予算	H28年度決算	備 考
(1) 寄付金収入	200,000	111,472	赤城乳業他
(2) 助成金収入	4,000,000	4,000,000	セブンスイブン記念財団
(3) 雑収入	0	31,534	
普通利息	0	14	
その他	0	31,520	
(A) 単年度収入合計	4,200,000	4,143,006	
(B) 前年度繰越金	83,549	83,549	
(C) 収入合計 =(A)+(B)	4,283,549	4,226,555	

【支出の部】

(単位:円)

科 目	H28年度予算	H28年度決算	備 考
(1) 事務局経費	3,188,120	3,257,321	
1) 事務局人件費	2,668,120	2,701,156	給与、通勤費等
2) 事務局運営費	520,000	556,165	HP管理・更新、通信費
(2) フォーラム事業費	1,010,000	964,832	企画運営委員会会場費借り上げ費、フォーラム総会会場借り上げ費、フォーラム交流会会場借り上げ費、広報宣伝費等
(D) 単年度支出計	4,198,120	4,222,153	
(E) 単年度収支差額 =(A)-(D)	1,880	-79,147	
(F) 次年度繰越金=(C)-(D)	85,429	4,402	

■資料 1：政策提案書

平成 28 年.09.20

東京湾パブリックアクセス方策に関する第一次政策提案

東京湾パブリックアクセス方策検討 PT

1. 背景

東京湾再生のための行動計画(第二期)では、『快適に水遊びができ、「江戸前」をはじめ多くの生物が生息する、親しみやすく、美しい「海」を取り戻し、首都圏にふさわしい「東京湾」を創出する。』と謳っている。この実現に向けて、「人々が海を知り、楽しむことにより人と海が共生する条件を整える必要がある。

そのため、

- ① 「人々が、手軽に海に接する既存のアクセスを広く認識し、活用が進むこと」
- ② 「現状ではアクセス困難な地域のアクセス拡充をはかること」の両方が必要である。
ここでは、まず①の充実を目指した政策の提案を行う。

1.1 現状と課題

- ・ 沿岸地方公共団体を中心に海浜公園・水際線に遊歩道等の整備がなされたり、そこへのアクセス路もあるが、多くは海浜公園等には海に関する情報等の提供がなく、人々が海に関心を持つ契機にはなかなかない。
- ・ 特にアクセスルート上には、海に関する解説等の情報は全くない。
- ・ まずは早期に①の促進を具体的に図る必要がある。

1.2 海辺へのパブリックアクセスの構成等

① パブリックアクセスの構成等

- ・ パブリックアクセスは、海との接点＝「視点場」と最寄り駅から視点場に向かう「ルート」とから構成される。
- ・ 視点場は、人々が訪れ、海を感じ、海を知り、海を楽しむことにより、人々の海への関心を高める「場」である。水飲み場、トイレ、ベンチ、緑陰を備え、駐車場、駐輪場の附置が望まれる。視点場の候補地として、海浜公園、魚釣り施設、人工海浜を提案する。
- ・ ルートは視点場への道筋であり、ルート上に存在する海に関連する資源(以下「ポイント」という。)を利活用して、海への関心を誘う道である。

② パブリックアクセスの設定主体

- ・ 自然海岸の時代は、住民や来訪者の繰り返しの通路がアクセスルートとして定着していた。
- ・ 東京湾奥部等を中心にした高度成長期の埋め立てにより水際線の私有化も進み、自然なルートの発達・利用が難しくなってきた。地方公共団体などにより、公園・遊歩道・人工海浜などの整備が行われた。
- ・ 埋立地に立地する事業者や住宅の利便性の向上を図るため、道路やバス網の整備が進んだ。
- ・ 地方公共団体が、沿岸域の総合管理の視点や地域振興の視点・地域の歴史文化の保存管理の視

点など公共的な政策意図から、主体的にアクセスルートを設定することも増えてきた。

- ・ パブリックアクセスは、こうした取り組みの延長線上にある。

③ パブリックアクセスルートの利用者

- ・ かつては、漁業関係者・釣り人らのほか、背後地域の住民や近隣の住民が中心であった。海辺で行われる伝統や言い伝えなどの世代間伝承が、コミュニティ内で行われていた。
- ・ 海へのアクセスルートが限定的になると、近隣の背後地域住民のアクセスも衰退した。
- ・ 近年の地域資源の再認識運動や街歩きの活発化、環境への関心の高まりの中で、遠隔の背後地からの来訪者も増加している。しかし、遠くからの来訪者はもとより、近隣に住んでいても海の魅力、楽しみ方、海の資源などを理解できない来訪者なども多い。

2. 当面の政策提案

「人々が、手軽に海に接する既存のアクセスを広く認識し、活用が進むこと」のために、既存の施設や既存のアクセスルートをよく知ってもらう政策・施設やアクセスルートの活用を促す施策を提案する。

2.1 情報提供機能の充実

ハードな施設自体の存在の認知と、その活用による便益を実感してもらうようなサービスの提供とをすすめる。

- ・ 海浜公園等を視点場にし、ルートを誘いの道にするため提供する情報を拡充する。提供する情報の内容は、場所ごとに異なるが、海への関心を喚起する内容とする。「視点場」にあつては、その形成、現状、海や景観、楽しみ方、危機回避情報法等を提供することが望まれる。ルート上のポイントにあつては、かつての沿岸域の姿、埋め立ての経過・意味・復元の取り組み等視点場情報との関係に留意する。
- ・ 海と人々の暮らし、東京湾再生への取り組みも紹介する。
- ・ また、利用者の利便性の確保と地域の活性化をはかる視点から、視点場、ルート上のサービス提供施設についても適宜、情報提供をする。
- ・ これらの情報源は、自治体の都・県・市・区史(誌)、郷土史、各部局の事業年報(史)、社史、博物館等の研究誌等となり、それらを「海への関心を喚起」するものとなるよう総合的に取り纏める必要がある。
- ・ 情報の提供手法は、地域の観光やイベント行事で近年急速に普及が進んでいる情報化技術を活用し、例えば、スマートフォンによるGPSと連動した音声ガイドシステムを利用する。
- ・ 東京湾再生会議による、情報ツールを活用した東京湾パブリックアクセス全体像の提供による個別パブリックアクセスのインデックス機能の開発、パブリックアクセスマップ・アクセスガイドの作成と普及。特に、既存の施設やアクセスルートの活用促進に役立つ情報が充実しているマップ・ガイドの作成が望まれる。

2.2 期待される効果

既存の資源を活用するものであり、低コストで人々の海への関心を高めることが期待できる。

併せて、随伴的に、児童生徒に対する学習機会の提供による将来の海洋人材の養成、人々の東京湾問題解決のための主体的参加の機運の醸成も期待できる。

また、観光振興の一助となることはもとより、地域へ多くの人々を招来することにより地域経済の活性化も考えられる。

2.3 提案施策の検討にあつたての併せての提案

この提案は東京湾再生推進会議メンバーへの提案として、関連する皆様の実現に向けたご検討や努力を期待するところです。官民連携フォーラムでは、「東京湾再生行動計画(第二期)」の目指す方向や実施方針にのっとり提案を意図していますが、パブリックアクセス情報提供システムの導入については、システム全体の進行管理や財源措置について、併せて具体的な検討をお願いするものです。その際、ステークホルダーとの調整にも配慮願いたい。

なお、フォーラムとして、1背景の②の検討を進め、今後2年を目途に最終提案をまとめてゆきたいと思っています。併せて、第一次政策提案のフォローアップにも努めます。

参考資料

東京湾パブリックアクセス例

■資料 2 : 会員メール配信 東京湾-News Letter

件数	配信日	内容
1	2016.04.01	フォーラム会員メンバーの方へのお知らせ«東京湾-News Letter» 新たに2つのPTが誕生し、メンバーを募集します。 -「東京湾浅瀬再生実験PT」、「東京湾の窓PT」-
2		葛西臨海公園 西なぎさを取り上げた NHK BS プレミアム放映に関口PT長毎回、 TOKYO の一つのエリアに注目。地元の人しか知らない、あるいは地元の人も知らない ディープな情報を徹底的に掘り起こすNHK BSプレミアムに関口PT長登場。 放送日：4月18日(月) 19:00~19:30 放送番組：NHK BSプレミアム 「TOKYOディープ」
3	2016.04.05	東京湾大感謝祭実行委員会情報
4	2016.04.07	公益財団法人日本財団 発表：海をテーマにした学びを支援する新たな助成制度「海洋 教育パイオニアスクールプログラム」をスタート 助成申請 2016年4月18日より
5	2016.04.25	東京湾再生官民連携フォーラム 「東京湾浅瀬再生実験PT」、「東京湾の窓PT」メンバー再募集のお知らせ-
6	2016.05.17	2016年6月5日(日)開催 アサリわくわく調査 in 野島 参加者募集!! 東京湾再生官民連携フォーラム、東京湾環境モニタリング推進PTは、今年で3年目を迎える「江戸前アサリわくわく調査」を横浜市金沢区野島干潟で6月5日(日)実施いたします。是非皆様の参加をお願いいたします。
7	2016.05.20	2016年7月14日(木)開催 CSR-NPO未来交流会のご案内 東京湾再生官民連携フォーラムでは、昨年に引き続きCSR-NPO未来交流会を開催します。
8	2016.05.23	NPO 法人 海に学ぶ体験活動協議会(CNAC)による -海と人との共生を目指す海洋教育-5月30日(月)講演会・開催のご案内
9	2016.05.26	東京湾大感謝祭展示・海のポスターコンテストの募集案内 / 江戸前復活(仮題)放送のお知らせ
10	2016.06.14	2016年7月14日(木)開催 CSR-NPO未来交流会 申し込み受付中!!
11	2016.06.15	本メールは東京湾再生官民連携フォーラム・東京湾大感謝祭実行委員会事務局に関係された方で、過去にご案内させていただいた皆様またはお名刺交換していただきました方にご送付させていただいております。どうかよろしく願い申し上げます。
12	2016.07.11	1)「東京湾情報カレンダー」をHP上にオープン、会員みなさまからの関連情報提供をお待ちしています! 2)フォーラムの活動&PT活動を紹介したパンフレットが完成!!
13	2016.07.27	朝日新聞・朝刊 社説 東京湾官民連携フォーラムの活動を「東京湾大感謝祭」と共に紹介 7月18日(月)は「海の日」です。これに伴い朝日新聞は、「海の再生」と題して、豊かな「里海」へ、行動をとって、日本の海の現状と再生には具体的な行動が必要となっていることを取り上げた社説が掲載されました。

14	2016.07.28	7月14日開催 CSR-NPO未来交流会、27団体・31人の参加。 実践・ノウハウ的な交流を実施
15	2016.07.30	東京湾を喋りつくす・トーク・報道番組のご案内 榭・東京湾再生アンバサダーも登場 ★8月4日(木)BS日テレ 22:00~23:00「深層ニュース」放送予定
16	2016.08.15	9月15日開催・施設見学会 参加者募集のご案内 東京湾再生のための多様な主体の交流の場の提供及びノウハウの共有、の参考として頂くため、昨年12月に引き続き、2016年は、9月に企業・行政等施設見学会を実施いたします。
17	2016.08.25	セブン-イレブン記念財団 助成金セミナー 9月10日開催のお知らせ セブン-イレブン記念財団では環境市民団体の活動を支援するために、 地域の間支援組織と連携し、全国の会場で「助成金セミナー」を開催します。 セミナーでは助成制度を有効に活用していただくために、財団・企業や行政などの助成 担当者が、それぞれの助成制度の特徴やポイントなどを紹介します。
18	2016.08.26	港湾空港タイムス、特集フォーラム紹介記事 連載始まる！！ 東京湾再生官民連携フォーラムの活動について、港湾空港タイムス (http://cpna.co.jp/times/) に連載が始まりました。
19	2016.08.31	企画運営委員会 審議中の政策提案書に関する会員の意見紹介のお願い 2016年の政策提案は、「東京湾パブリック・アクセス方策に関する第一次政策提案書 (案)」
20	2016.09.03	9月15日・施設見学会 残り僅か4名分！参加者募集
21	2016.09.05	第17回 東京湾シンポジウム 参加のご案内とポスターセッションのポスターを募集
22	2016.09.05	9月15日・施設見学会 満席御礼
23	2016.09.06	シリーズ第2回「港湾空港タイムス」に東京湾大感謝祭の活動紹介 東京湾再生官民連携フォーラムのプロジェクトチームの活動が、 港湾空港タイムスで連載記事になりました。 シリーズ2回目は、東京湾大感謝祭(平成28年9月5日号掲載)です。 添付資料をご参照ください。今までの経過と想いが詰まった記事です。
24	2016.09.13	東京湾大感謝祭2016 市民団体の活動、東京湾の歴史・文化資料等の 無料出展の募集!! 会員限定
25	2016.09.22	☆シリーズ第3回「港湾空港タイムス」に東京湾での海水浴復活の方策検討PT紹介。 東京湾再生官民連携フォーラムのプロジェクトチームの活動紹介が、 港湾空港タイムスで連載しています。 シリーズ3回目は、東京湾での海水浴復活の方策検討PT活動の紹介です。
26	2016.09.23	第8回 東京湾海洋環境シンポジウム 10月16日(日)開催 東京湾を学ぶ：沿岸・流域環境とウナギ 日時：2016年10月16日(日) 13:30~16:30 場所：東京海洋大学品川キャンパス2号館100A教室 その他：入場無料、事前登録なし、駐車場なし

		主催：東京湾海洋環境研究会 後援：東京大学海洋アライアンス，東京湾再生推進会議（申請中） 東京湾再生官民連携フォーラム 東京湾の環境をよくするために行動する会（申請中）
27	2016.09.26	9月17日（木）第2回目「企業・行政等施設見学会」開催 参加者は事務局を含めて総勢28名。
28	2016.10.04	シリーズ第4回「港湾空港タイムス」に東京湾環境モニタリングの推進PT紹介
29	2016.10.08	東京湾大感謝祭&東京湾大交流会 ご参加のお誘い
30	2016.10.11	「東京湾再生官民連携フォーラム 平成28年度通常総会のご案内」
31	2016.10.18	「東京湾再生官民連携フォーラム 平成28年度通常総会ご出欠確認のお願い」 ◆東京湾大感謝祭実行委員会10月14日、記者発表
32	2016.10.20	28年総会資料ホームページ掲載のご案内
33	2016.10.20	◆21日・金曜日、横浜・赤レンガ倉庫の広場、22日の開催準備真っ只中、 AM1242 ニッポン放送 望月理恵・上柳昌彦 金曜ブラボーの中継が入ります
34	2016.10.26	第4回通常総会・結果のお知らせ、ご協力の御礼
35	2016.11.01	◆東京湾再生官民連携フォーラム PT 活動の紹介・連載記事：シリーズ第5,6回 港湾 空港タイムス掲載記事のご案内 東京湾再生官民連携フォーラムのプロジェクトチームの活動紹介が、港湾空港タイムス で連載しています。今回のお知らせはその第5回、第6回の連載記事、二つのPT活動 のご紹介です。★シリーズ第5回 生き物生息場づくり（平成28年10月17日号掲 載）★シリーズ第6回 東京湾再生のための行動計画の指標の活用（平成28年10 月31日号掲載）
36	2016.11.11	今年も交流会を実施いたしますので是非、この機会をご利用いただきあたらしいパート ナー、知見を深め合うことができましたら幸いです。 会員みなさまの参加をお待ちしております。 CSR-NPO未来交流会 テーマ：連携による環境活動からの多様性社会づくり
37	2016.11.16	CSR-NPO未来交流会のご案内・ご参加のお願い
38	2016.11.28	平成28年度第2回 CSR-NPO未来交流会開催 只今、参加者募集中
39	2016.12.13	日本野鳥の会東京では、12月18日に、「東京湾の再生と葛西三枚洲 -ラムサール条約 への登録を目指して-」と題してシンポジウムを開催します。 以下、本シンポジウムのご案内です。ご興味のある会員の皆様のご参加 をお待ちしています。
40	2016.12.15	平成28年度 第2回 CSR-NPO 未来交流会 ご出席者様 各位 御礼メール このたびは、本交流会にご出席賜りまして誠にありがとうございます。 厚く御礼申し上げます。
41	2016.12.16	CNA C全国フォーラムの開催予定およびエコツアーのご案内
42	2016.12.21	平成28年度第2回CSR-NPO未来交流会開催報告& 港湾空港タイムス掲載・CSR-NPO未来交流会記事のご紹介

43	2016.12.23	東京湾再生アンバサダー・榎アナ 日本テレビ 「所さんの目がテン！」出演のご案内
44	2016.12.27	◆港湾空港タイムス掲載 PT 活動記事のご案内 特集最終回・東京湾浅瀬再生実験 PT
45	2016.01.04	所さんの目が点（2016年1月8日（日）放送予定）には、東京湾の窓 PT 風呂田先生が登場！！東京湾再生アンバサダー・榎太一アナ持ち 込み企画「東京湾グルメ」（仮）放送のご案内
46	2016.01.24	「東京湾環境学習フォーラム」のご案内 申込み受付中!
47	2016.01.29	「ブルーカーボン研究会」設立記念講演会のご案内
48	2016.01.30	『第11回 海の再生全国会議』東京都・開催のご案内 ～海の再生プロジェクト 新たな展開を目指して～
49	2017.02.20	東京湾再生のための行動計画（第二期）」 中間評価に際しての意見照会のお 願い
50	2017.03.02	みなと総研 平成29年度「未来のみなとづくり助成」募集のご案内
51	2017.03.17	「東京湾再生のための行動計画（第二期）」の第1回中間評価をとりまとめ 公 表
52	2017.03.30	フォーラムから東京湾再生推進会議へ3つ目となる政策提案の手交

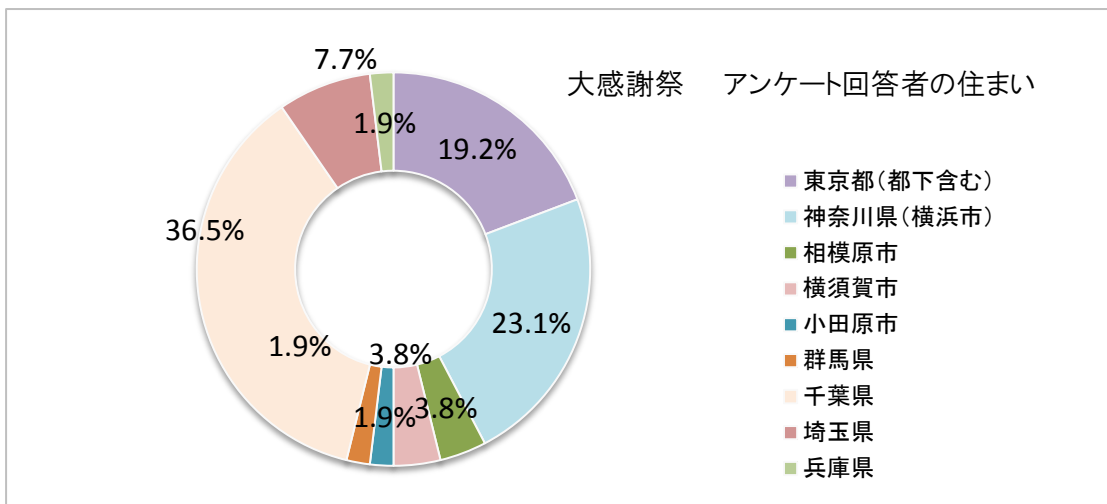
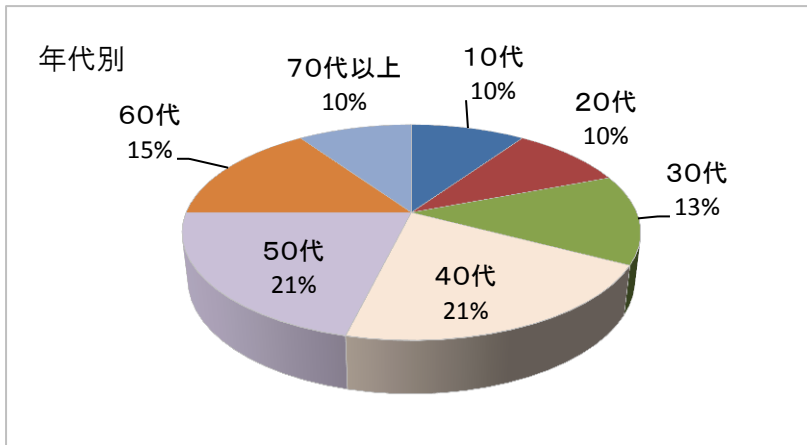
■資料3：東京湾大感謝祭 2016 開催会場アンケート結果

会場内（赤レンガ 広場）調査対象：来場者アンケート

基本情報（FACE） アンケート回収総数：52 通

（性・年代別内訳）

	10代	20代	30代	40代	50代	60代	70代以上	合計
男性	4	4	3	7	7	4	3	32
女性	1	1	4	4	4	4	2	20
合計	5	5	7	11	11	8	5	52



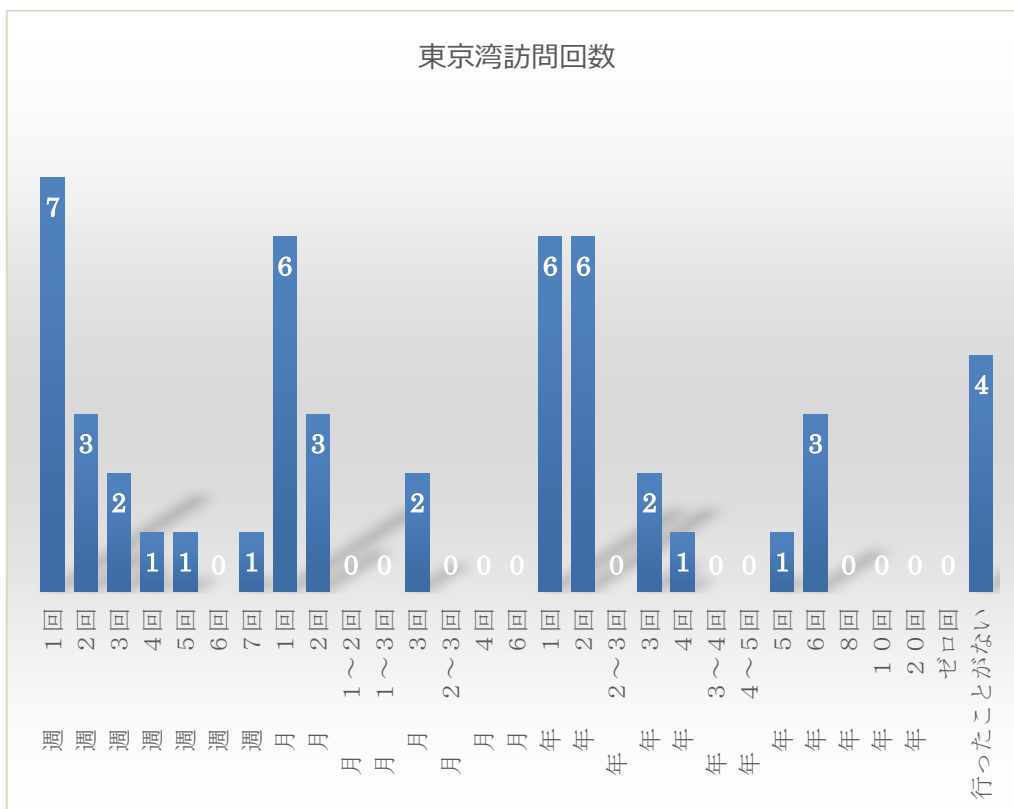
■感謝祭への来訪理由

(男性・女性 合計 参加の理由)	10代	20代	30代	40代	50代	60代	70代以上	不明	合計
1. 官民連携フォーラムのHPや東京湾大感謝祭のHP、フェイスブックを見て	0	1	0	1	5	1	0	0	8
2. ポスター、チラシなどを見て関心を持ったから	0	2	0	1	2	0	0	0	5
3. 知人、友人、家族などに誘われたから	4	0	2	4	2	4	4	0	20
4. 関係団体加入しているため	2	0	1	3	3	3	0	1	13
5. 新聞・雑誌、自治体広報誌などにより	0	0	0	0	1	0	0	0	1
6. 赤レンガのHPなど、ネットニュースなどスマホなどの活用により	0	1	0	1	1	0	0	0	3
7. 赤レンガに来て、気が付いて来場	0	0	2	2	1	0	0	0	5
8. その他	0	2	2	1	1	0	0	0	6

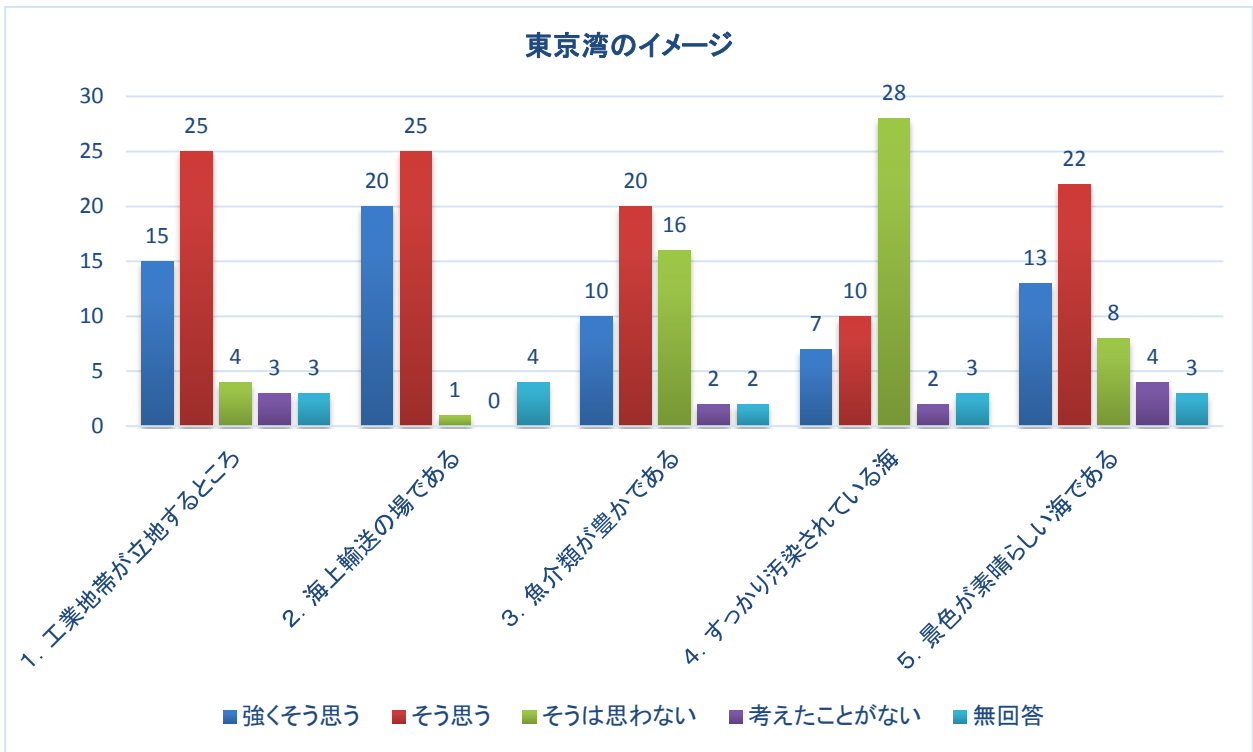
東京湾大感謝祭の活動認知について

(男性・女性 合計)	10代	20代	30代	40代	50代	60代	70代以上	不明	合計
1. よく知っている	0	1	1	2	3	1	0	0	8
2. 知っている	1	2	1	3	4	1	0	0	12
3. しらない	0	1	3	1	1	1	2	0	9
4. まったく知らない	2	0	0	0	0	2	0	0	4
5. 初めて知った	2	1	2	5	3	3	3	0	19

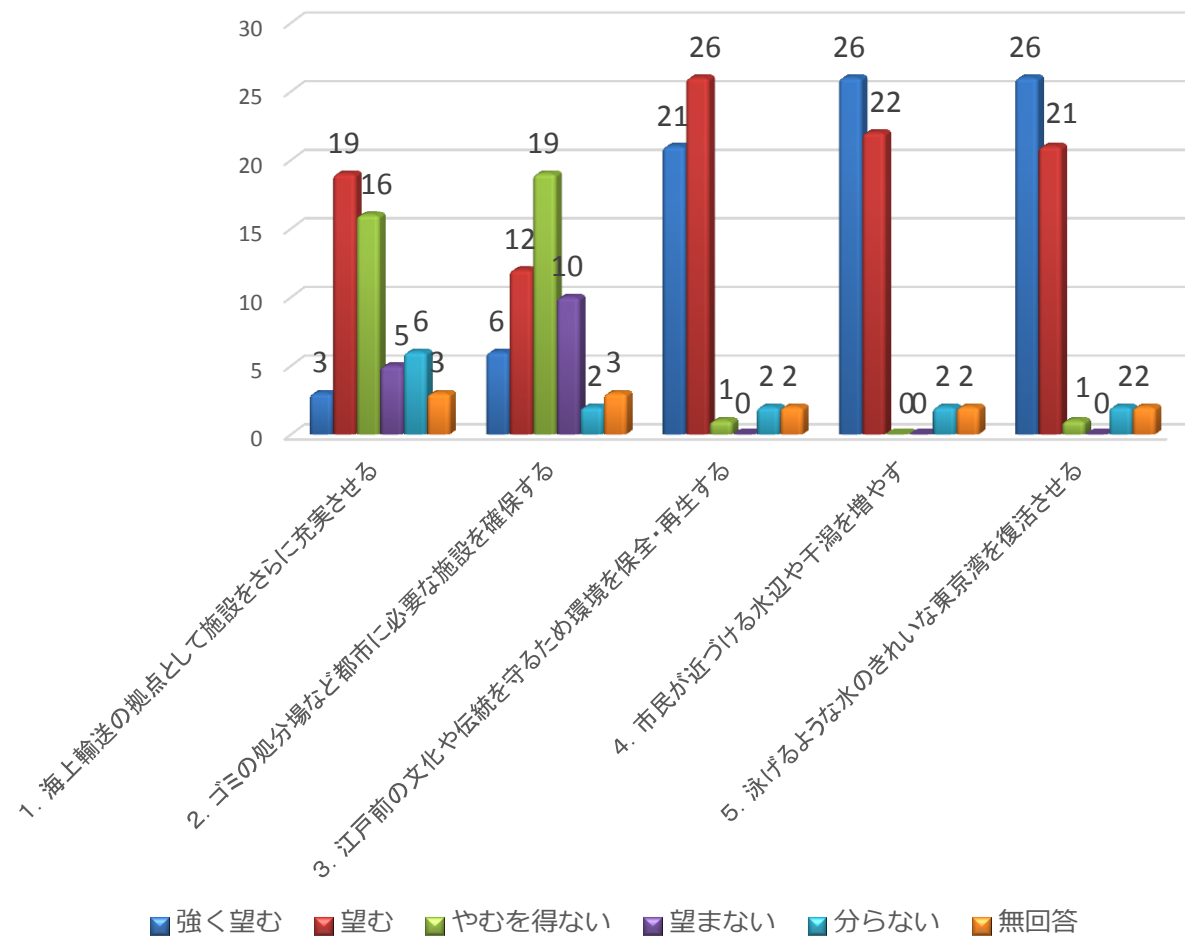
■東京湾への訪問回数



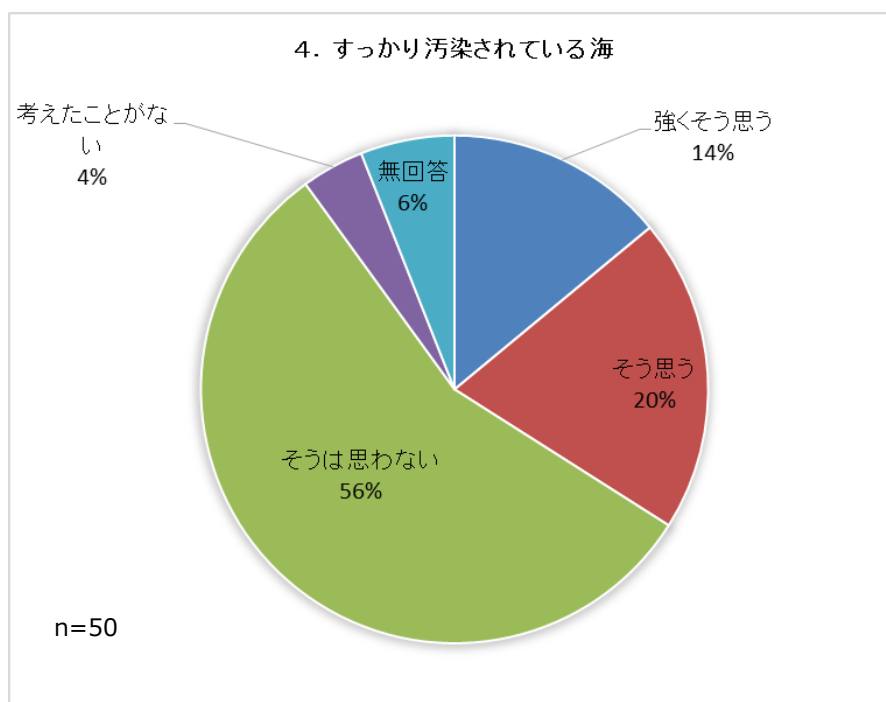
■東京湾のイメージ



■東京湾の改善ポイント



■東京湾のイメージ 海の汚染について



海を大切にする意識

(男性・女性 合計)	10代	20代	30代	40代	50代	60代	70代以上	不明	合計
1. 環境に配慮して生活の中で自分たちが出す雑排水を意識する(例・洗剤などの利用)	2	1	3	9	6	4	2	0	27
2. うちのゴミを意識し、川などにゴミを捨てない	4	4	5	7	10	6	4	0	40
3. 沿岸域などの活用のため自然(干潟や海岸、人が立ち入る場所など)が失われていることに気が付き実感したことがある	2	2	1	5	8	4	4	0	26
4. 海でのレジャーでゴミ(ペットボトル、ビニール、缶、ビンなどやたばこの吸い殻などを海や海岸(砂浜)、などに捨てない	3	3	5	13	7	7	4	0	42
5. 海の生きものを最近(3年以内)手で触ったことがありますか	2	1	0	5	2	2	1	0	13
6. 食生活では魚介類の天然もの、養殖ものと意識して食べる	0	1	2	4	4	2	1	0	14
7. 食生活では魚介類の産地を意識して食べる	2	2	2	3	2	2	1	0	14
8. 特に意識したり経験したことはない	0	0	0	0	0	0	0	0	0
9. その他	0	0	0	1	0	0	0	0	1

※東京湾再生官民連携フォーラム事業は、一般財団法人セブン-イレブン記念財団からの
多大なご支援を受けております。

※赤城乳業(株)さま、個人の方よりご寄附をいただき感謝いたします。



この事業は「国連生物多様性の10年日本委員会（UNDB-J）」
が推奨する事業として認定を受けています

東京湾再生官民連携フォーラム事務局

東京都港区虎ノ門 3-1-10 第2虎の門電気ビルディング 4F

(一般財団法人 みなと総合研究財団内)

電話 03-5408-8298